

平成26年度

足立区立元洲江公園・生物園 指定管理業務

年間事業報告書

指定管理者

体験型いきものパークマネジメント

東京都立川市錦町2-1-22

代表 株式会社自然教育研究センター

代表取締役 税所 功一



平成26年度 元漕江公園・生物園
指定管理業務 報告書

目 次

第一章 利用促進・教育普及業務

I	長期方針と平成26年度の活動	
	1.長期方針	1
	2.今年度の活動	1
	(1) 重点的取り組み	
	(2) 平成26年度の数値目標	
	(3) 業務実施計画	
	(4) 行事計画	
II	受付業務	
	1.受付窓口	8
	(1) 年間入園者数の月別推移とその傾向	
	(2) 入園料収入	
	(3) インフォメーションの対応実績	
	(4) 来園者の声	
	2. ミュージアムショップの利用状況と売上実績	14
	(1) 利用状況	
	(2) 販売状況	
	(3) 店舗・商品管理状況	
III	展示解説業務	
	1. 展示解説実施および対応実績	19
	2. 夜間特別開園の実施	23
	(1) ホタルの夜間観賞会	
	(2) 光の祭典夜間特別開園	
	3. 自主事業の実施	23
	(1) 特別イベント	
	(2) ふれあいプログラム	
	(3) 導入型プログラム	
	(4) 発展型プログラム	
	3. 区民協働活動の推進・支援	28
	(1) 昆虫飼育ボランティア	
	(2) チョウ飼育ボランティア	
	(3) 生きものふれあいボランティア	
	4. 団体対応	29
	(1) 団体プログラム対応	
	(2) 出張授業対応	
	(3) 実習対応	

5. 展示による解説	31
(1) 常設展示	
(2) 企画展・特別展	
6. 印刷物による解説	35
(1) セルフガイド	
(2) ニュースレター	
7. 連携事業	37

IV 広報活動

1. メディア対応・掲載等の実績	42
2. ホームページによる情報発信	45
3. ポスター・チラシ等による情報発信	47

第二章 生物飼育業務

I 生物飼育業務

1. 平成 26 年度の飼育状況	52
(1) 昆虫類	
(2) 両生爬虫類	
(3) 水族	
(4) 鳥類哺乳類	
2. 各飼育区分の飼育種数および頭数のリスト	53
(1) チョウ類の年間飼育種数および頭数のリスト	
(2) 水生昆虫類の年間飼育種数および頭数のリスト	
(3) 陸生昆虫類の年間飼育種数および頭数のリスト	
(4) 両生爬虫類の年間飼育種数および頭数のリスト	
(5) 水族の年間飼育種数および頭数のリスト	
(6) 鳥類の年間飼育種数および頭数のリスト	
(7) 哺乳類の年間飼育種数および頭数のリスト	
3. 特記事項	65
(1) チョウ類の月別放蝶実績	
(2) ツシマウラボシシジミの生息域外保全	
(3) ホタルの飼育展示実績	
(4) 「ホタルのタベ」実現に向けたとりくみ	
(5) 観察展示室「両生爬虫類展示エリア」の改修	
(6) 観察展示室「水族展示エリア」の水槽改修について	
(7) ピラルクーの成長実績	
(8) 野生個体の保護（傷病鳥の受け入れ）	

第三章 施設維持管理業務

I	元湊江公園の維持管理業務	72
	1. 公園管理上の留意事項	
	2. 公園維持管理業務の内容	
	3. 元湊江公園維持管理業務報告	
	4. 元湊江公園維持管理作業の様子	
II	生物園の維持管理業務	77
	1. 生物園維持管理業務の内容	
	2. 生物園維持管理業務報告	
	3. 生物園維持管理作業の様子	

第一章 利用促進・教育普及業務

I 長期方針と平成 26 年度の活動

1. 長期方針

『体験型いきものパーク』実現に向けて4つの機能を充実させます

本共同体は、指定管理業務期間である5年間の中で、元湊江公園および、生物園に『レクリエーションの場としての機能』、『環境学習の拠点としての機能』、『自然科学博物館としての機能』、『生物多様性保全の拠点としての機能』を位置づけ、『体験型いきものパーク』の実現を目指していきます。



2. 今年度の活動

(1) 重点的取り組み

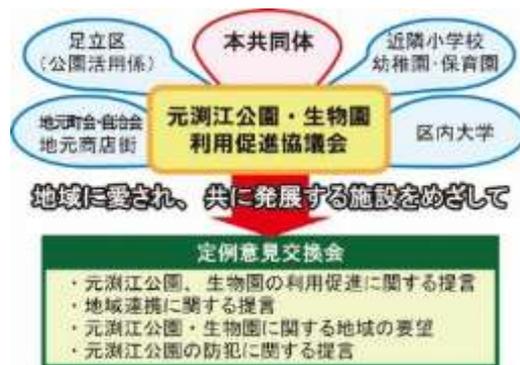
今年度は指定管理の初年度となるので、具体的取り組みとして連携や事業の見直し、元湊江公園の活性化などの基盤づくりを目指して活動していきます。

① 連携事業の基盤づくり

● 地域連携

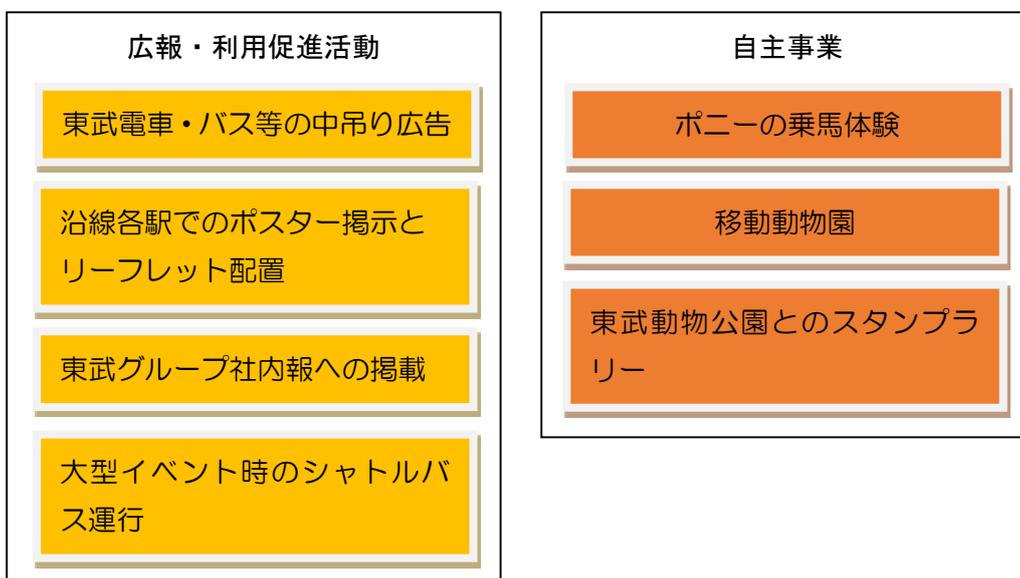
元湊江公園や生物園の利用に関する地域のニーズや意見を汲み上げ、利用促進につながる仕組みとして本共同体、足立区、地元町会・自治会、地元商店街、近隣小学校、幼稚園、保育園、区内大学などを構成員とする「元湊江公園・生物園利用促進協議会」を立ち上げ、原則、年1回以上の意見交換会の開催を目指します。

さらにミュージアムショップの運営においては、区内業者と連携し『生物園お土産研究会』を展開します。区内業者の優れたものづくり技術と私どものアイデアを集約することで、生物園オリジナル商品の開発に取り組めます。アンテナショップの役割を担いつつ、各企業のビジネスモデルの構築にお役に立ちたいと考えています。



● 東武グループとの連携

東武グループとの連携により主に広報活動と自主事業の充実を図ります。



● その他の連携

生物園では、さまざまな関連機関や団体と連携し、生物園および連携パートナーの利用促進と機能向上に努めていきます。以下は、計画あるいは、検討中の連携事業案です。

- ・ギャラクシティ：相互プログラム協力など
- ・都市農業公園：プログラム協力
- ・中央図書館：企画図書展「生きものに親しもう！（仮）」
- ・足立区生涯学習振興公社：マイタウンコンサートの実施
- ・荒川ビジターセンター：ヒノマイトトンボの生息域外保全
- ・桑袋ビオトープ公園：駆除外来種（アメリカザリガニ）の受け入れ、大型肉食魚類やワニガメのエサとして活用
- ・区内商業施設：出張生物園
- ・環境省、チョウ類保全協会：ツシムウラボシシジミの生息域外保全
- ・千葉県、東邦大学：ニホンイシガメの生息域外保全
- ・帝京科学大学：インターンの受け入れ

② 事業の見直し

● プログラムの見直し

本共同体の代表企業である自然教育研究センターは、長年にわたり生物園のプログラム開発に努めてまいりました。その結果、環境教育的効果が高く、かつ区民のニーズにあったプログラムの実施が可能となっています。今後更に効果的なプログラムの展開を図るために、継続すべきプログラムに加えて、新規プログラムをご提案いたします。

	平成25年度プログラム	平成26年度プログラム		備考
展示イベント	冬のホタル鑑賞会	冬のホタル鑑賞会	継続	光の祭典との連動イベント。
展示イベント	ホタル見night!	ホタル見night!	継続	夏の恒例イベント。夜間に開催
展示イベント	夏のホタル鑑賞会	夏のホタル鑑賞会	継続	夏の恒例イベント。昼に開催
導入型プログラム	チョウを放そう!	チョウを放そう!	継続	毎日行う定番のプログラム
導入型プログラム	生きものガイド	生きものガイド	継続	毎週行う定番のプログラム。
導入型プログラム	生物園うらがわ探検ツアー	生物園うらがわ探検ツアー	継続	毎月行う定番のプログラム。
導入型プログラム	ちびっこプログラム	ちびっこプログラム	継続	乳幼児を対象にした毎週行うプログラム。
導入型プログラム	育ててみよう! ミジンコ	探す!育てる!観察!「シ」	継続	プログラム名を替えて実施。
導入型プログラム	バタフライウォッチング	バタフライウォッチング	継続	チョウの行動を観察。
導入型プログラム	見つけた! ちりめんじゃことかくれんぼ	刊マツの光 生物をさがせ!	継続	プログラム名を替えて実施。
導入型プログラム	ホタルのガイドツアー	ホタルのガイドツアー	継続	ホタル見nightとの連動プログラム。
導入型プログラム	ホタルの飼育教室	ホタル飼育教室	継続	生物園のホタル飼育の現場を体験。
発展型プログラム	生物園サマースクール	こども飼育員になろう!	継続	プログラム名を替えて実施。
発展型プログラム	ミツバチからの贈り物〜はちみつ搾り〜	家族でハチミツ搾り体験	継続	プログラム名を替えて実施。
発展型プログラム	昆虫標本教室	昆虫標本教室	継続	夏休みの恒例プログラム
発展型プログラム	東京湾干潟ウォッチング	東京湾干潟ウォッチング	継続	昨年度も大人気だったプログラム
発展型プログラム	ゼミの羽化観察会	ゼミの羽化観察会	継続	夏休みの恒例プログラム
ふれあいプログラム	小動物ふれあい体験	小動物ふれあい体験	継続	人気のイベント、毎日ふれあうことが出来る。
ふれあいプログラム	ネコのふれあい体験	ネコのふれあい体験	継続	人気のイベント、毎日ふれあうことが出来る。
ふれあいプログラム	金魚すくい	金魚すくい	継続	恒例のイベント、GW、夏休み、秋に実施
ふれあいプログラム	海の生きものタッチプール	海の生きものタッチプール	継続	夏の恒例イベント、海の生きものとのふれあい。
ふれあいプログラム	クリスマス馬車に乗って記念撮影!	クリスマス馬車に乗って記念撮影!	継続	クリスマス恒例イベント。
ふれあいプログラム	ガラ・ルファ体験	ガラ・ルファ体験	継続	恒例イベント、ドクターフィッシュ体験。
導入型プログラム		まーしー園長のガイドツアー	新設	園長のおススメの生きものを紹介する。
導入型プログラム		カエルの観察会	新設	池に棲むカエルの生態を紹介。
導入型プログラム		さわってきいて体感!生きもの観察	新設	五感を使って生きものを体験する。
導入型プログラム		探す!育てる!観察!「鳴く虫」	新設	鳴く虫の採集・飼育・観察方法の紹介。
導入型プログラム		公園の生きものさがしツアー	新設	生物園の庭園や公園内の自然観察。
導入型プログラム		探す!育てる!観察!「タマシ」	新設	ダンゴムシの採集・飼育・観察方法の紹介。
導入型プログラム		テントウムシコレクション	新設	公園で見られるテントウムシの観察。
導入型プログラム		探す!育てる!観察!「チョウ」	新設	チョウの採集・飼育・観察方法の紹介。
導入型プログラム		探す!育てる!観察!「カタツムリ」	新設	カタツムリの採集・飼育・観察方法の紹介。
発展型プログラム		やってみよう! 魚拓づくり	新設	魚拓をとりながら魚類の形態について学ぶ。
発展型プログラム		手羽先で骨格標本をつくろう!	新設	骨格標本を作りながら鳥類の体の構造を知る。
発展型プログラム		蜜蜂キャンドルを作ろう!	新設	育てているミツバチの巣から蜂燭を作る。
発展型プログラム		イカ墨で書き初め!	新設	イカを解剖しイカ墨を取り書き初めをする。
発展型プログラム		こども獣医さんになろう!	新設	生物園の獣医さんと一緒に獣医体験をする。
発展型プログラム		里山の生きもの調査隊	新設	里山へ生き、夏の生きものを採集する。
発展型プログラム		生物園に泊ろう!	新設	生物園に泊まり、夜の行動を観察する。
発展型プログラム	池の生きもの救出大作戦!		廃止	池の工事で生物の状況が変わったため。
発展型プログラム	大人のためのチョウ飼育教室		廃止	参加申し込みが少なかったため。
発展型プログラム	大人のためのチョウの行動学		廃止	参加申し込みが少なかったため。
発展型プログラム	大人のためのチョウの採集方法		廃止	参加申し込みが少なかったため。
発展型プログラム	大人のためのチョウの標本づくり		廃止	参加申し込みが少なかったため。

● 「ホタルのタベ」復活に向けたロードマップづくり

昆虫ドームを利用した「ホタルのタベ」を復活させるために、5年計画でホタルの飼育を拡充させていきます。



③ 自主事業実施による元漕江公園の活性化

- 公園まるごとおもちゃ箱への出展

毎年11月に実施される「公園まるごとおもちゃ箱」は、多くの区民団体が公園で遊ぶ楽しさ伝えるために実行委員会形式で実施されています。生物園としてもその趣旨を踏まえ、協力することで元漕江公園の利用促進につなげていきたいと考えています。東武動物公園と連携した「ポニーの乗馬体験」の実施を検討中です。

- ドッグフェスタの開催準備（2年目までに開催）

元漕江公園は多くの愛犬家に利用されています。また、盲導犬や介助犬など、人と犬との関わり合いが高まっています。そこで、犬の能力や魅力を感じることができる「ドッグフェスタ」を開催します。

- 公園の池を活用した釣り教室開催の準備（3年目までに実施）

魚釣りは、生きものと触れ合いつつ、環境についても学べる、誰もが楽しめるレジャーです。しかし、未経験者にとっては、場所や道具等がわからず、気軽に始められないと思われがちです。そこで、定期的に元漕江公園の釣り池をフィールドとして「フィッシング・スクール」を開催し、元漕江公園のレジャー機能を向上させ、利用者のマナー向上にもつなげます。

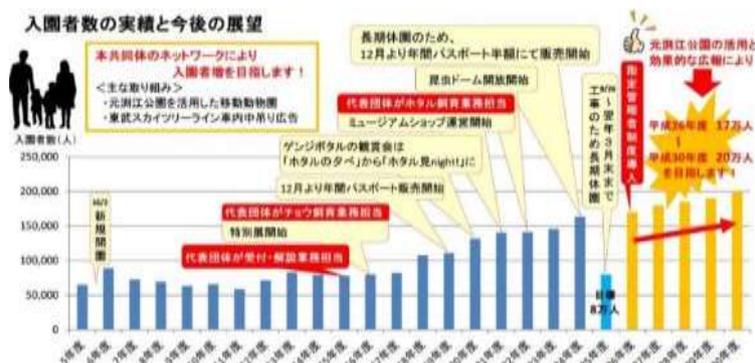
- 桜フェスティバルの開催の準備（3年目までに開催）

桜は多くの日本人に愛され、元漕江公園にとっても重要な資源として考えることができます。そこで「桜フェスティバル」と称して積極的にPRすることで、より多くの区民に利用されるよう努めていきます。その際、騒音やゴミなどについて一定のルールを設け、地域住民に配慮します。また、秩序が保たれるよう時間帯を定めた夜桜のライトアップを検討します。

(2) 平成26年度の数値目標

① 目標年間入園者数：170,000人

本共同体は指定管理期間である5年間で入園者数を20万人まで増加させることを目標とし、それを実現させるため、今年度は17万人を目指します。



② 目標年間対応率：100%以上

来園される全ての方に生物園の魅力を伝え、生物や生命の尊さに気付いてもらうため、解説員や飼育員などによる対応をできるかぎり行えるよう努力していきたいと考えています。そこで、総入園者数に対する延べ対応者数の割合が100%を超えることを目標とします。なお、対応者数としてカウントするのは下記の通りです。

インフォメーション：受付での「見どころ紹介」「イベント案内」「展示案内」等

レンジャートーク：解説員による「生物解説」「質問対応」「展示解説」等

プログラム：対象者のレベルに応じて「導入型」「発展型」「セルフ」等

③ 発展型プログラムの目標応募率：120%以上

発展型プログラムは、あらかじめそのテーマに関心を持った方を対象に、より高度な内容で実施するため、募集形式を事前申込にしています。そのため応募状況がそのプログラムの人気（ニーズ）のひとつの目安となります。そこで、定員に対する応募者数の割合を応募率とし、それが120%を超えるよう、タイトルや内容、広報などに工夫していきます。

④ 導入型プログラムの目標参加率：100%

気軽に参加でき、生物や生命に関心を持つきっかけとなるよう、導入型プログラムは当日申込の形式をとっています。休日には、このプログラムの参加を目的に来園される方も多くいます。天候などに影響を受けることもありますが、プログラムのニーズの目安として、定員に対する参加者数の割合を参加率とし、それが100%に達するよう努力します。

(4) 平成 26 年度行事計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	火	木	日	1	金	月	1	土	月	1	日	日
2	水	金	月	2	土	火	2	日	火	2	月	月
3	木	土	火	3	日	水	3	月	水	3	火	火
4	金	日	水	4	月	木	4	火	木	4	水	水
5	土	月	木	5	火	金	5	日	金	5	木	木
6	日	火	金	6	日	土	6	月	土	6	火	金
7	月	水	土	7	月	日	7	火	日	7	水	土
8	火	木	日	8	火	月	8	水	月	8	木	日
9	水	金	月	9	水	火	9	木	火	9	金	月
10	木	土	火	10	木	水	10	金	水	10	土	火
11	金	日	水	11	金	木	11	土	木	11	日	水
12	土	月	木	12	土	金	12	日	金	12	月	木
13	日	火	金	13	日	土	13	月	土	13	火	金
14	月	水	土	14	月	日	14	火	日	14	水	土
15	火	木	日	15	火	月	15	水	月	15	木	日
16	水	金	月	16	水	火	16	木	火	16	金	月
17	木	土	火	17	木	水	17	金	水	17	土	火
18	金	日	水	18	金	木	18	土	木	18	日	水
19	土	月	木	19	土	金	19	日	金	19	月	木
20	日	火	金	20	日	土	20	月	土	20	火	金
21	月	水	土	21	月	日	21	火	日	21	水	土
22	火	木	日	22	火	月	22	水	月	22	木	日
23	水	金	月	23	水	火	23	木	火	23	金	月
24	木	土	火	24	木	水	24	金	水	24	土	火
25	金	日	水	25	金	木	25	土	木	25	日	水
26	土	月	木	26	土	金	26	日	金	26	月	木
27	日	火	金	27	日	土	27	月	土	27	火	金
28	月	水	土	28	月	日	28	火	日	28	水	土
29	火	木	日	29	火	月	29	水	月	29	木	日
30	水	金	月	30	水	火	30	木	火	30	金	月
		土		31	日		31	金	水	31	土	火

ネコザメにタッチ!

金魚すくい

海の生きものタッチプール

クリスマス馬車

ガラルファ体験

おたまじゃくしのタッチプール

オープニングイベント
お正月イベント

両生類展
クリオネと冷たい
海のいきもの

虫の親子関係展

特別展「とぶ! 生きもの展」

コツコツ骨

生きものクリスマス展

Ⅱ 受付業務

1.受付窓口

(1) 年間入園者数の月別推移とその傾向

今年度の生物園総入園者数は 197,134 人（月平均 16427.8 人）、平成 24 年度比 120.5% で、平成 5 年度の開園以来、最多の入園者数となりました。

今年度の入園者数月別推移をみると、4 月、5 月に大きなピークがあることがわかります。これは、次のような理由が考えられます。

- ・休園中に生物園に対する期待感が高まった。
- ・休園中、足立区の他の施設（ギャラクシティなど）との連携事業を行うことにより、今まで周知が行き届いていなかったエリアの人に知ってもらえた。
- ・足立区の広報で、大きく取り上げてもらった。
- ・リフレッシュオープン前や後に様々なメディアに取り上げてもらった。
- ・東武線中吊り広告の効果。

また、8 月に入園者を増やすことができたのは、「夏休みキャンペーン」と題して、多くのプログラムを集中させた効果であると考えます。

施設のキャパシティを考慮すると、繁忙期の入園者をこれ以上増加させるのは困難であると思われます。そこで次年度以降は、広報やイベントを工夫し、閑散期の入園者を増やす努力をしていきたいと考えます。

平成 26 年度 生物園入園状況一覧表

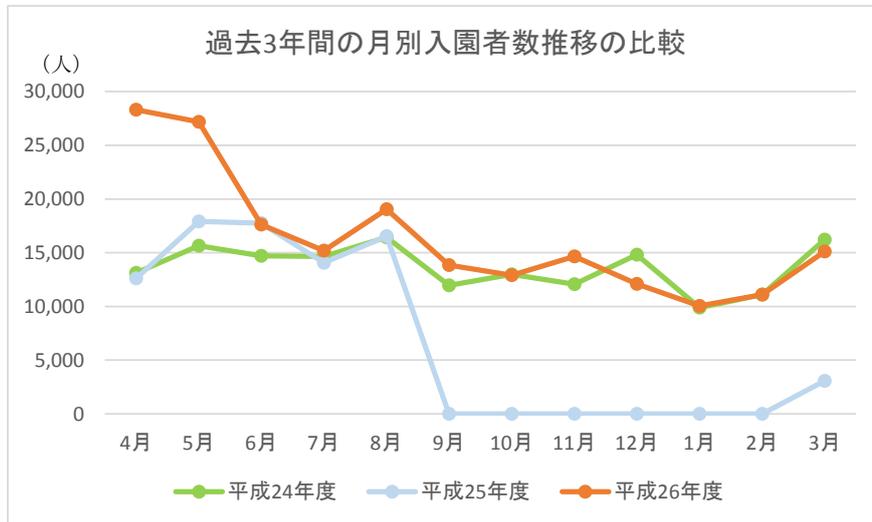
(単位：人)

月	有 料 分		(団 体 分)		パスポート購入		計 (A)	免 除 分		(パスポート入場)		計 (B)	人数合計 (A+B)
	大 人	小中学生	大 人	小中学生	大 人	小中学生		大 人	小中学生	大 人	小中学生		
4	9,513	3,927	16	267	1,650	702	16,075	2,827	7,581	1,101	729	12,238	28,313
5	9,637	3,100	291	435	500	184	14,147	2,488	8,163	1,708	690	13,049	27,196
6	5,877	1,538	114	132	242	75	7,978	2,478	5,390	1,334	432	9,634	17,612
7	4,492	1,517	57	136	206	95	6,503	1,460	5,005	1,416	796	8,677	15,180
8	6,199	2,752	37	221	176	77	9,462	1,571	5,743	1,556	719	9,589	19,051
9	4,198	1,170	87	142	113	25	5,735	1,190	5,100	1,404	417	8,111	13,846
10	2,522	624	151	15	79	19	3,410	1,564	6,165	1,323	451	9,503	12,913
11	3,849	1,137	84	17	67	30	5,184	1,431	6,180	1,394	460	9,465	14,649
12	4,110	1,511	0	0	58	25	5,704	973	3,575	1,334	511	6,393	12,097
1	2,883	758	0	0	112	24	3,777	909	3,769	1,232	372	6,282	10,059
2	3,085	680	0	0	111	15	3,891	1,099	4,488	1,319	306	7,212	11,103
3	3,921	1,238	0	0	106	26	5,291	1,734	5,886	1,682	522	9,824	15,115
計	60,286	19,952	837	1,365	3,420	1,297	87,157	19,724	67,045	16,803	6,405	109,977	197,134

過去3年間の月別入園者数推移の比較

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年度	13,116	15,652	14,708	14,650	16,421	11,966	12,978	12,056	14,815	9,876	11,097	16,220	163,555
平成25年度	12,610	17,916	17,762	14,059	16,553	0	0	0	0	0	0	3,069	81,969
平成26年度	28,313	27,196	17,612	15,180	19,051	13,846	12,913	14,649	12,097	10,059	11,103	15,115	197,134



(2) 入園料収入

今年度の生物園の入園料収入は26,264,700円となりました。特に4月、5月は入園者数が突出して多かったことに加えて、年間パスポートの購入者が集中したことにより、このような偏った収入額の推移となりました。

平成26年度 生物園入園料収入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成26年度	¥5,874,050	¥4,168,200	¥2,365,200	¥1,904,350	¥2,559,400	¥1,617,100	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	¥988,100	¥1,442,150	¥1,544,250	¥1,127,400	¥1,169,700	¥1,504,800	¥26,264,700



(3) インフォメーションの対応実績

受付では入園券の受け取りや年間パスポート作成の他に、来園者に対して適切な情報提供も行いました。インフォメーションは年間 121673 回 136047 人に実施しました。

生物園の入り口に位置する受付は、来園者にとって最も生物園の印象を受けやすい場のひとつとなります。そのため、より親しみやすく、利用しやすい印象を与えるために、「元気に笑顔で」をモットーに積極的な接客対応を心がけました。

施設内の展示やイベント案内はもちろん、周辺の交通機関や飲食店などの広い範囲の情報提供を行いました。また、来園者と直接やり取りする場面において、要望や意見を敏感に察知し、「来園者の声」として区へ提案し、実現へつなげることで、利用者サービスの向上に努めました。

インフォメーションの年間対応数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
回数	18120回	16489回	11215回	8444回	12211回	7608回	7424回	8605回	7122回	6873回	7244回	10318回	121673回
対応人数	20990人	20254人	12551人	10225人	13408人	8286人	7970人	9383人	7487人	7250人	7594人	10649人	136047人

(4) 来園者の声

来園者に、より満足していただけるように、来園者の要望を真剣に考え、来園者が求めている要望を超えたサービスを提供できるように心がけた対応を行ないました。

生物園では常駐するスタッフといつでも会話することができ、その中で来園者のちょっとした要望や意見について聞き取る場面が多くあります。これらの声をおもてなしの精神をもって、聞き漏らさず、敏感に吸い上げることは、利用しやすい生物園の実現のため重要となります。そこで、聞き取った「来園者の声」を業務日誌に記録するとともに、アンケートによる「ご意見」と合わせて、集約しています。その上で、「来園者の声」とその対策案を月例会議にて区へ報告、提案し、改善へつなげることで、来園者へのサービス向上に努めました。

4月度

来園者の声・課題	対応
水辺に柵が無いので不安	木材で縁を作ることを検討します。
休憩所や食事が取れる場所がもっとほしい。軽食を販売してほしい。	休憩場所は、生物園内のみでなく、元洲江公園をご利用ください。軽食についてはパンの販売を検討中です。
きつずルームを開放してほしい。	4/11から段階的に開放予定です。

5月度

来園者の声・課題	対応
駐車場が無料なので助かる	有料化に向け、来園者の理解が得られるよう案内していきま
ドクターフィッシュを体験したい	来年1月に実施予定です。来園者の少ない時期に企画して、来園者数確保につなげます。
犬とふれあいたい	犬の要望は多数いただいています。来年度ドックフェスティバルを企画しています。犬の散歩のマナーが悪いとの指摘があり、マナー向上に貢献できるような内容を、帝京科学大学と連携して行うことを考えています。
へびにさわりたい	月一回の写真撮影会で触れあい可能です。また、アオダイショウなら解説員に言えば常時対応可能です。
ネコとのふれあい時間を増やしてほしい	現状でかなりストレスがかかっているため、時間延長は考えていません。
チンチラのえさやりがしたい	安全管理上の問題で実現困難です。
きつずルームに小学生も入れて欲しい	入れない方針です。ホームページ上で詳細をアナウンスしま
金魚の種類を増やしてほしい	検討します。
金魚すくいをまたやってほしい	夏に2日間行う予定があります。

サソリ、タランチュラが見たい	今後の特別展・展示替えで対応します。
馬に乗りたい	秋以降実施予定があります。
ミニ動物園を開催して欲しい	秋以降実施予定があります。
アルパカが見たい	秋以降実施予定があります。
ザリガニがいなくて残念	展示予定はありません。
オージードームの扉が開けっ放しになっていて、鳥が逃げてしまうのでは？	戸当たりの取り付けで対応しました。
前に来た時よりさわられる昆虫が少ない	ふれあいメインの特設展示が終了してからこういった要望が増えています。解説員に言えば個別で対応することが可能ですが、大々的なアナウンスは考えていません。
ピラルクが小さい	順調に成長していますので見守ってください。
オージードームの池がきたない	今後改善を目指します。

6月度

来園者の声・課題	対応
解説サインの文字をもっと大きくして欲しい	要望が複数出てきたら対応します。
ザリガニ釣り復活希望	あだちの生き物観察室での実施を検討中です。→カニ釣りを実
ブタにえさやりをしたかった	豚の購入を検討しています。
動物に野菜をあげたい	健康管理上問題があるので、野菜の受け取りのみとしていま
ちゃんとした石鹸でしっかり洗いたい	ミュージアムと同等品の薬用石鹸を使用しています。
フクロウがご飯を食べているところを見た	夜行性であるため困難です。
クジャク、ハツカネズミ、豚はお休み？	ハツカネズミは出張生物園等で使用予定です。
動物に名前をつけたい	順次実施していきます。
ボールペンが書きづらい	要望が複数出てきたら対応します。
エサの種類や与え方をもっと工夫して欲しい	利用者の安全と動物の健康を考慮しています。
駐車場が少ない	10月から有料化となります。
チモシーを食べてくれない	ヒツジの頭数が増える予定です。
子供がエサをあげるの難しい	今後の課題として検討します。

7月度

来園者の声・課題	対応
ドームに頭をぶつけてしまったので、ゴムカスポンジをつけてほしい	危険と思われる場所には既に設置済みです。他にも同じような声があったら対応します。
ワニが見たい	展示の予定はありません。
チョウを羽化してみたい	観察ができるような方法を考えて対応可能か検討します。
食虫植物が見たい	温室もしくは前室で展示可能か検討します。
熱帯の淡水魚が見たい	温室・地下展示室でご覧いただけます。
クイズ大会をやってほしい	冬に開催予定です。
こう少し子供が遊べるスペースが欲しい	予定はありません。
モルモットの遊び場を作って欲しい	ほかにも要望があれば、オージードーム内で検討します。
いろいろなハチが見たい	マルハナバチであれば展示可能です。他のハチは安全性の問題があります。
くさい	タッチプール内の臭いは、施設管理の薬剤を試用してみます。
ガーがいなくなって残念	地下で飼育していますが、大水槽で展示するためには展示のストーリー替えが必要となってきます。

8月度

来園者の声・課題	対応
ライオン・ゾウ・キリン・ペンギン・イルカ・シカ・レッサーパンダ・シロクマ・アザラシ・ハブを見てみたい	移動動物園で対応可能なものはシカくらいです。他の動物の展示は困難です。
魚との触れ合いがしてみたい	ドクターフィッシュのイベントを実施します。
ゴミ箱を色々な所に置いてほしい	ゴミ箱は、ショップの前に設置しています。その他のゴミはスタッフが受け取るなどして対応します。
ポニー乗馬がしたい	公園おもちゃ箱、移動動物園の際に実施予定です。
死んだ生き物のお葬式をやってほしい	慰霊碑を作って供養しています。
ホタルドームを復活してほしい	実施準備中です。
金魚が死んでいるので処理をして欲しい	浮いているものは回収していますが、沈んでいるものはダイバーが潜ったときに回収しています。

9月度

来園者の声・課題	対応
昆虫の展示がとても良いので拡充して欲しい。	拡充の予定はありません。特別展で対応します。
蛇を触りたい。首に巻きたい。	第二土曜日にプログラムがあります。
リスに餌をあげたい。	安全管理上実施困難です。
カメに乗ってみたい。	生体のストレスとなりますので実施不可です。
冷水機に踏み台が欲しい。	踏み台を設置しました。
魚釣りがしたい。	カニ釣りを企画中です。将来的には釣り教室も検討しています。
卵無使用のいきものパンは可能か？	要望が多ければ、対応を考えます。
ゴキブリがいなくなって残念	ゴキブリ展を実施中です。
化石を展示して欲しい。	化石の展示予定は現在ありません。(在庫もありません)
カブトムシの幼虫が見たい。	スタッフに声がけしてもらえれば対応可能です。
フグが見たい。	ミドリフグの購入を予定しています。
大水槽前に椅子が欲しい。	椅子を設置しました
開園時間を延長して欲しい。	夜間開園があります。また、夏休み期間は30分間延長します。
温室で放蝶をやっている間、人が多すぎて通り抜けられない。	築山を清掃して通り抜け可能にします。(対応済み)

10月度

来園者の声・課題	対応
生き物の説明に毒の有無を記載してほしい	必要と思われる種類には記載済みです。
アリゲーターフィッシュ、ペンギン、ナマズ、ライギョ、タランチュラ(キングバブーン)、ハヤブサ、チョウゲンボウが見たい	タランチュラ、ナマズの仲間は飼育していますので希望があれば見せることは出来ます。ハヤブサ、チョウゲンボウは荒川で見られるので、荒川VCを紹介します。
化石をミュージアムショップで販売してほしい。	ガチャでの対応を検討します。
ヘビが生まれるところ、脱皮するところを見たい。	タイミングがあれば告知します。
蛹展をやしてほしい。	クリスマス展の時に蛹ツリーを展示します。
チョウを捕まえている来園者がいる。見回り等の対策を強化してほしい。	大温室の「チョウを捕まえないでね」アナウンスの検討をします(水対策・音声ガイド)。見回りに関してはチョウ班で強化しています。

11月度

来園者の声・課題	対応
雨でもふれあいたい	オーストラリアドームで実施しています。屋外通路に関しては傘を貸し出し予定です。
もっと展示物を増やしてほしい	展示スペースに限りがあるので、特別展の展示替えをご案内します。
冬もタッチプールをやしてほしい	実施する場所の確保できないので、困難です。夏は、リクガメを屋外に移動して場所を確保しています。
トナカイ、ヤギ、毒ヘビ、ペンギン、クマ、熱帯魚が見たい	熱帯魚は展示しているものがあります。他は現状では困難です。
馬に乗りたい	乗馬体験で対応します。
ショップの値段が高い	クオリティを落とせば廉価なものも販売できますが、品質を優先しています。
園の利用やショップでの購入に対して駐車場の優待が無いのはおかしい	区の施設は一斉に駐車場を有料化しています。園の利用で優待を行ったら、逆に車で来ていない人は何の特典もなくなることになってしまいます。

12月度

来園者の声・課題	対応
ミーアキャット、コアラ、ラクダ、ニワトリが見たい	移動動物園の時に来るアルパカはラクダの仲間であることを案内します。ニワトリは導入検討中です。
ホタルの時間をもっと早くしてほしい	今年度から、年明けに昼のホタル観賞会を行っています。
年パスの写真を子供と一緒に撮れるようにしてほしい	写真が小さく、複数人おさめてしまうと、受付で確認がしづらくなります。ご了承下さい。
ホタル感動しました	
ヒツジのショーが可愛かった	好評につき、2月から毎月第一土曜日に開催します。
蛹のツリーが綺麗すぎて偽物かと思った	
子供が池に落ちたがスタッフに親切にしてもらって助かった	
エサ代が高すぎる	他にも要望があがったら検討します。
ふれあいコーナーが寒すぎる	ハロゲンヒーターを設置しました。
ホタル観賞のアナウンス(録音)の音が暗くクリスマスなのにイベントが無くて残念(12/25)	確認して対応を検討します。 今年度は24,25日に夜間開園を行いませんでしたが、来年から実施の方向で検討します。

1月度

来園者の声・課題	対応
デンキウナギ、ブラックマンバ、ヒクイドリ、カクレマノミが見たい	デンキウナギ:現在は飼育していませんが、今後検討します。 ブラックマンバ、ヒクイドリは飼育、展示予定はありません。 カクレマノミは展示しています。
想像以上の施設で感動しました	
ワークショップ的なものがあると良い	参加型イベントは、ちびっこプログラムなどで工作等を行っています。聞かれたら案内をします。
実用性の高い、またはレアなグッズ販売を増やしてほしい	夏場は虫網や虫カゴを販売しています。レアなものは、おみやげ研究会で生物園オリジナルの商品作りに力を入れています。
いきものパンが似すぎていてびっくりした。とてもおいしかった。	
今日から開園しているとは思わなかった(1/2)	
クイズ大会で負けて悔しかった。またやりたい。	
大温室にあるチョウの種類の手紙(解説板?)が欲しい。	チョウの種類を書いた、パウチした解説シートを大温室においてあります。パウチしたものを100円くらいで販売することを検討しています。
カルタ面白かった	オリジナルカルタを商品化できないか検討しています。
足立区内勤務は無料にならないのか?(無料開園日)	足立区在住の方のみ対象です。
ガラルファ体験の魚の数が少なかった	この意見があったのは、ちょうど最初に入れた分が減って、新たに入れる直前の時期。おそらく100匹程度しかいませんでした。その後早めに追加入荷をし、計600匹で対応しました。
チョウがあまり飛んでいなくて残念だった	数は十分いるので、おそらく天気の関係と思われます。チョウは晴れた日の午前中に観察するのがお勧めです。

2月度

来園者の声・課題	対応
ヒツジの毛刈りが見たい	GW開けに開催予定です。
カメに触ってみたい(リクガメ?)	インドホシガメをふれあい展で実施予定です。
大ムカデ、グリーンイグアナ、オオアナコンダが見たい	飼育自体は可能ですが、展示予定はありません。
シマリスが空中トンネルを移動しているところを見たかった	
記念撮影のヘビがもっと大きいと良い	PR用の画像で使われている個体が体調不良(ダニ)のため、一回り小さい個体での対応となっています。完治すれば復帰可能です。
水槽を増やしてほしい	現状で水槽を増やすことは考えていません。
モルモットが可愛かった	
トイレの便座が冷たい(男性)	区の他の施設での対応を確認中です。

3月度

来園者の声・課題	対応
プレーリードッグ、アリ、クジラが見たい	プレーリードッグは以前飼育していましたが、現在は飼育可能な場所がありません。アリは種類次第で展示可能です。
館内が明るくなっていてよかった	
小学生がきッズルームに入れるイベントを実施してほしい	単発のイベントであれば、実施を検討します。
ハムスターやウサギを抱っこしてみたい	安全性の問題で、モルモットのみでの対応とさせていただきます。
ヒヨコと触れ合いたい	ニワトリに成長してしまうので実施困難です。
インコと触れ合いたい	噛む可能性があるので実施困難です。
温室が楽園だった。すばらしい。	
リクガメをもっと増やしてほしい	パンケーキリクガメとアカアシリクガメの搬入予定があります。
チョウの飼育をしてみたい	小学生は時間を決めて入ってもらう対応をしています。飼育教室のイベントもあります。
オオゴマダラに感動した	
チョウの標本を展示してほしい	特別展等で随時展示しています。
ヒツジのショーが中止になって残念	雨天中止としています。回数を増やせないか検討中です。
東輝がカラスに毛をむしられていてかわいそう	生え変わりの時期なので痛くはありません。
大人向けの展示やイベントがあると良い	以前は開催していましたが、人数が集まらないので廃止しています。はちみつ絞り等は大人も参加可能です。
記念スタンプがあると良い	設置場所等を検討します。
モルモットのエサが目前で売り切れになった 「あと何個」と案内してほしい	一人一個とか規制をしていないので、案内が難しくなっています。ベンダーが売り切れの場合はチモシーで対応しています。
カンガルーにエサがやりづらい	現状では網目からあげるしか方法がありません。別の方法が無いか検討しています。

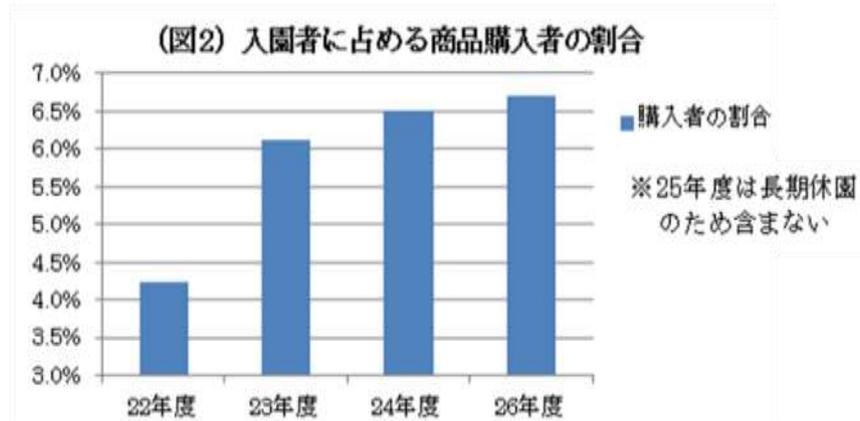
2.ミュージアムショップの利用状況と売上実績

(1) 利用状況

平成26年度のミュージアムショップ（以下ショップ）利用者数は56,824人、商品購入者数は13,263人でした。（図1）ここでのショップ利用者とは、ショップ内に立ち入り、商品を眺める、触れる、商品についてスタッフに尋ねるといった、販売に関連する行動をした人数を指します。全入園者数に対して、ショップを利用したのは約28.8%、ショップで商品を購入したのは約6.7%にあたります。また、全入園者数には校外学習で訪れた幼稚園生や小学生、デイサービスの団体利用などショップに立ち寄らない利用者が含まれます。これらの免除申請利用者を引いた入園者でみると、ショップを利用したのは約51.5%、商品を購入したのが約12.0%となります。

	ショップ利用者数	ショップ購入者数	入園者数
4月	7,942	1,576	28,313
5月	9,280	1,316	27,196
6月	4,445	933	17,612
7月	4,240	1,293	15,180
8月	6,656	1,872	19,051
9月	4,288	1,090	13,846
10月	3,001	787	12,913
11月	3,821	1,017	14,649
12月	3,657	887	12,097
1月	3,009	706	10,059
2月	2,822	780	11,103
3月	3,663	1,006	15,115
計	56,824	13,263	197,134
平均	4,735	1,105	16,428

全入園者数に占めるショップ購入者の割合を年度別に表したのが、以下の（図2）です。22年度は4.2%でしたが、23年度で6.1%、24年度で6.5%と増加しています。パンや缶バッジなど、リピーターのお客様でも来る度に購入していただけるような商品を入れたことも、購入者増加の一つの理由ではないかと考えられます。

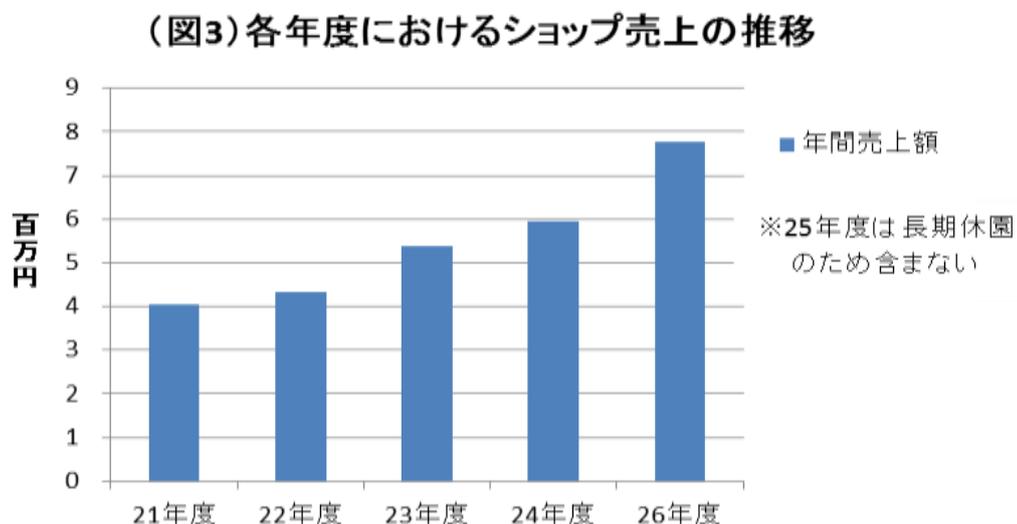


(2) 販売状況

① 年間売上額

平成26年度のショップ売上額は7,799,740円で、当初の目標であった売上700万円を突破しました。このショップ売上には、食品およびミュージアムショップの前に設置されているガチャの売上額を含んでいます。また、足立区の有料頒布物「荒川の昔」はショップで販売していますが、別会計で売上を全て区に納めているため、ショップ売上には含まれません。

ミュージアムショップ開店から26年度までの、各年度におけるショップ年間売上額の推移をまとめたものが以下の（図3）です。平成21年に開店して以来、毎年順調に売上を伸ばしています。特に26年度は、リフレッシュオープンによる入園者数増加の影響もあり、売上が大きく伸びていることが分かります。



② 月別販売状況

各月のショップ売上額と入園者数を比較したものが（図 4）です。8 月の売上額が突出して高くなっています。夏休みのため、入園者数が多いということもありますが、それ以上に入園者に占める、商品購入者の割合が高かったことが大きな要因だといえます。虫眼鏡や観察グッズなど、夏休みの課題に活用していただけるような商品をショップの一面に揃えて「自由研究におすすめ」コーナーを設けたこと、アイスの夏期限定販売を行ったことなどにより、利用者にとって魅力ある商品展開ができたことが購入者増加の一因となったのではないかと考えられます。その他の月については概ね、ショップ売上は入園者数の増減に応じて変動しているといえます。



③ 客単価

客単価とは、購入者 1 人当たりがどの程度の額の買い物をしているかを表すために、ショップの売上額を購入者数で割って算出したものです。平成 26 年度の平均客単価は 588 円で、24 年度よりも 67 円の増加となりました。

(図5) 24年度との月別客単価の比較

	24年度	26年度	24年度との差額
4月	¥527	¥632	¥105
5月	¥551	¥685	¥134
6月	¥511	¥666	¥155
7月	¥482	¥537	¥55
8月	¥478	¥559	¥81
9月	¥433	¥497	¥64
10月	¥535	¥575	¥40
11月	¥568	¥588	¥20
12月	¥543	¥514	¥-29
1月	¥549	¥591	¥41
2月	¥508	¥583	¥75
3月	¥562	¥615	¥53
平均	¥521	¥588	¥67

月別客単価を 24 年度と比較すると、12 月を除く全ての月で増加しています（図 5）。例年、おせんべいや消しゴムといった単価の低い商品がよく売れる傾向にありますが、26 年度はそれだけではなく、ハンドブックや金魚飼育セット、アリの観察キットなど、単価が 1000 円以上する商品でも販売数の増加がみられました。このことが、客単価の大幅な増加をもたらしたのではないかと考えられます。

(3) 店舗・商品管理状況

① 店舗状況

改修工事に伴って、ミュージアムショップもリニューアルしました。25年度までは壁一面に家がデザインされており、商品の陳列スペースが限られていましたが(図6)、今年度は家のデザインを撤去して壁紙を全て白に塗り替え、シンプルな棚を設置しました。(図7)これにより、壁全体を商品の陳列や紹介に使えるようになりました。

店内の商品配置としては、クッキーやおせんべいといった食品は全てレジ前の最も目が届くところに集める、小さなお子様が手にとると危険な商品を低い棚に置かない、といった点を意識しました。商品棚などは全て床もしくは壁に固定しており、誤ってよりかかったり引っ張ったりしても倒れないようにしています。

(図6) 25年度の店内外観



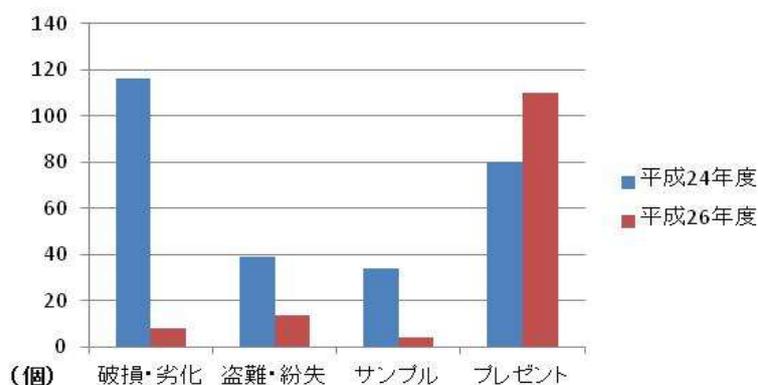
(図7) 26年度の店内外観



② ロスト商品について

本年度のロスト商品数は136点で、総損失額は37,095円でした。ロストとは、破損や紛失、プレゼントなど、販売以外で在庫から減った商品全てを指します。また、破損したものの仕入れ元が交換してくれたなど、結果としてこちらの在庫数が減らなかったものはロストには含まれません。ロスト商品を「破損・劣化」「盗難・紛失」「サンプル」「プレゼント」の4項目に分類したものが(図8)です。

(図8) 平成24年度とのロスト商品数の比較



24年度のロスト269個、72,577円と比較すると、26年度は個数も損失額も大きく減らすことができました。大きな要因として、24年度に最も多くを占めていた「破損・劣化」を8個に減らすことができたことが挙げられます。商品が破損した場合には、可能な限り仕入れ元に交渉して交換していただいたり、事前にサンプル用として余分にいただいていた分と交換したりすることで、極カロスト商品を出さないようにしました。一方、「プレゼント」のロストは110個と最も多く、24年度と比較しても増加しました。これは、足立広報の応募景品や、小学生クイズの参加賞、年賀状コンテストの賞品など園として用意したプレゼントを、本年度はショップのロストとして処理したためです。

③ 取り扱い商品について

26年度に取り扱った商品は41法人408種でした。

食品については以前からの「ちょっと食べられる軽食やおやつが欲しい」という要望に応え、新規の取引先のクッキー、ドライフルーツ、パンの販売を開始しました。

また、昆虫やカメなどのイラストを描いているイラストレーター「みのじ」さんや、昆虫グッズを専門に取り扱う「(有)むし社」とのお取引を開始し、生物園らしい商品の展開に努めました。みのじ氏はイズーのロゴデザインやズーラシア、野下山動物園などのオリジナルグッズのイラストも手掛けるイラストレーターです。東京都で見られる虫81種を描いた「東京の虫手ぬぐい」や、生物園で展示している種を含むリクガメ13種類を描いた「リクガメメモ帳」などは、いきもの好きの利用者の方からも大変評判の良い商品です(図9)。「(有)むし社」からは、昆虫採取の書籍や本物の昆虫を使った標本ストラップなどを仕入れており、こちらも人気商品となっています(図10)。

(図9) みのじ氏のグッズ



(図10) むし社の書籍と昆虫標本ストラップ



Ⅲ 展示解説業務

1. 展示解説実施および対応実績

生物園・元湊江公園を活用し、数々の催しを開催しました。自主事業では生物園のテーマ「ふれあい・いのち・共生」を踏まえた内容のプログラムを行いました。当日募集のプログラムの中には、未就学児でも楽しめる「ふれあいプログラム」と、生きものに関心や興味を持った方を対象にした「導入型プログラム」の性質が違う2つプログラムを行いました。また事前募集のプログラムでは生きものや自然により深い興味・関心を持たせる「発展型プログラム」を行いました。

団体向けには通常の生物園内での団体向けプログラムを中心とした「団体対応」や、小学校へスタッフが赴きプログラムを行う「出張授業」を行うなど、団体利用を促進しました。

また職場体験やインターンなど中学校や大学・専門学校などで行われる総合学習に対しても積極的に対応を行いました。

生物園以外の施設と連携した「施設連携」も積極的に行い、園内のプログラムはもちろん他施設へ出張して行うプログラムも行い、お互いの利用促進に努めました。

また区民に向けては生物園・元湊江公園で活動を行うボランティアを3つ運営し活動を行いました。

生物園・元湊江公園の魅力やレジャー機能を向上させるために、魅力的な常設展を展開し、また定期的に特別展・企画展を開催することで飽きずに楽しめる運営を心がけました。

平成26年度イベント開催数など

(単位：回、人)

番号	事業	回数	応募者数	参加者数	備考
1	当日募集	51	0	234,710	
2	事前募集	13	530	340	
3	団体対応	7	0	5,607	
4	出張授業	6	0	460	
5	総合学習	33	0	120	対応者数
6	施設連携	6	0	1,187	
7	ボランティア	3	0	73	登録人数
8	特別展	5	0	0	
9	企画展	18	0	0	
	合計	142	610	242,497	

※数値は環境事務評価の集計方法にのっとり、開催回数は同テーマで行われたプログラムは複数回を1回にまとめて計上しております。

平成 26 年度当日募集イベント開催数

(単位：回、人)

番号	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
	当日募集				
1	魚類のエサやり	1		12,361	毎日開催
2	骨ベスト	1		429	コソコソ骨展連動プログラム
3	生きものタッチ	1		21,036	生きものふれあい展連動プログラム
4	カニ釣り	1		1,393	毎日開催
5	カブクワふれあい	1		1,086	カブトムシ・クワガタムシ展連動プログラム
6	ガラ・ルファ体験	1		3,455	1月2日-2月1日の期間、毎日開催
7	きつずルーム	1		17,877	毎日開催
8	クリスマス馬車と記念撮影	1		1,123	12月の土日祝に開催
9	タッチプール	1		12,343	7月19日-8月31日の期間、毎日開催
10	哺乳類ふれあいコーナー	1		106,278	毎日開催
11	生きものガイド	1		499	毎週土曜日開催(第3週を除く)
12	うらがわ探検ツアー	1		191	毎週第2日曜日開催
13	まーしー園長のガイドツアー	1		250	毎週第1日曜日開催
14	公園の生きもの探しツアー	1		128	毎週第4日曜日開催
15	ちびっこプログラム	1		541	毎週水曜日開催
16	おもしろ生きもの講座	7		370	オープニングキャンペーンとして数回実施
17	カエルの観察会	1		21	3月8日
18	さわって!聞いて!体感!生きもの観察	1		26	10月13日
19	チョウの飼育体験	1		13	随時実施
20	チョウを放そう	1		9,765	毎日開催
21	探して!育てて!観察!	5		70	各テーマで年間数回実施
22	チリメンジャコのチビ生物を探せ!	1		24	5月6日
23	ナイトツアー「熱帯の世界」	1		1,045	冬の夜間特別開園連動プログラム
24	ニシキヘビと記念撮影	1		591	毎週第2土曜日開催
25	冬のホタル観賞会	1		3,311	冬の夜間特別開園連動プログラム
26	ホタル鑑賞会	1		11,066	ホタル見night連動プログラム
27	ホタルの昼間観賞会	1		3,518	7月上・中旬の土日に実施
28	ホタルのガイドツアー	1		776	ホタル見night連動プログラム
29	ミツバチの飼育	1		165	毎週日曜日(冬季を除く)
30	ワンニャン探検隊	1		119	12月23日
31	ワンニャンフェイスペイント	1		31	12月24日
32	バタフライウォッチング	1		18	4月27日
33	爬虫類のエサやり	1		7,582	毎日開催
34	昆虫のエサやり	1		3,388	毎日開催
35	出張生物園	1		3,996	年間数回実施
36	ヒツジと記念撮影!	1		324	12月-1月の土日祝実施
37	金魚すくい	1		6,257	年間数回実施
38	移動動物園	1		2,331	年間数回実施
39	ポニー乗馬体験	1		424	年間数回実施
40	寄せ植え教室	1		16	花フェス連携プログラム
41	らんちゅう倶楽部	1		473	年間数回実施
	小 計	51		234,710	

※数値は環境事務評価の集計方法にのっとり、開催回数は同テーマで行われたプログラムは複数回を1回にまとめて計上しております。実際の開催数は「自主事業の実施」(p23～)の項目を参照してください。

平成 26 年度事前募集イベント開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	事前募集				
1	家族でハチミツ搾り体験	1	126	26	6月22日
2	昆虫標本教室	1	41	27	7月20日
3	東京湾の干潟ウォッチング	1	68	43	7月26日
4	セミの羽化観察会	1	71	36	8月2日
5	こども飼育員になろう！	1	13	13	8月4日
6	里山の生きもの調査隊	1	39	27	8月6日
7	生物園に泊まろう！	1	88	21	9月14日
8	やってみよう！魚拓作り	1	25	22	10月19日
9	手羽先で骨格標本作り	1	8	8	11月16日
10	蜜蝋キャンドルを作ろう！	1	20	17	12月23日
11	イカスミで書初め	1	16	15	1月18日
12	こども獣医さんになろう！	1	15	15	2月8日
13	Dream night at the Zoo	1	80	70	3月28日
	小 計	13	610	340	

平成 26 年度団体対応開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	団体対応				
1	ウェルカムトーク・お見送りトーク	1		3,819	年間数回実施
2	クイズラリー	1		1,006	年間数回実施
3	足立区の生きもの	1		129	年間数回実施
4	生きものふれあい	1		81	年間数回実施
5	生物園ガイドツアー	1		95	年間数回実施
6	チョウの一生	1		429	年間数回実施
7	その他	1		48	年間数回実施
	小 計	13	0	5,607	

※数値は環境事務評価の集計方法にのっとり、開催回数は同テーマで行われたプログラムは複数回を 1 回にまとめて計上しております。実際の開催数は「団体対応」(p29)の項目を参照してください。

平成 26 年度出張授業開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	出張授業				
1	チョウの飼育	3		188	年間数回実施
2	出張生物園	2		94	年間数回実施
3	足立の昆虫	1		178	年間数回実施
	小 計	13	0	460	

平成 26 年度総合学習開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	総合学習				
1	職場体験	15		53	対応者数
2	職場訪問	8		40	対応者数
3	インターン	6		6	対応者数
4	学芸員実習	2		12	対応者数
5	緑化企業実習	2		9	対応者数
	小 計	33	0	120	

平成 26 年度施設連携開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	施設連携				
1	出張生物園「ギャラクシティ」	1		468	年間数回実施
2	ホテルのガイドツアー「竹ノ塚地域学習センター」	1		16	
3	出張プラネタリウム「ギャラクシティ」	2		626	
4	探して！育てて！観察！ダンゴムシ「ギャラクシティ」	1		38	
5	生きものふれあい「足立区男女参画プラザ」	1		39	
	小 計	6	0	1,187	

平成 26 年度ボランティア登録人数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	ボランティア				
1	昆虫ボランティア	1		15	登録人数
2	チョウの飼育ボランティア	1		27	登録人数
3	生きものふれあいボランティア	1		31	登録人数
	小 計	3	0	73	

平成 26 年度特別展・企画展開催数

(単位：回、人)

	名 称	回 数	応募者数	参加者数	備 考
番号	特別展				
1	生きものタッチ	1			生きもの研究室
2	とぶ飛ぶ跳ぶ生きもの	1			生きもの研究室
3	クリスマス展	1			生きもの研究室
4	お正月展	1			生きもの研究室
5	奇想天貝	1			生きもの研究室
	企画展				
1	両生類	1			生きもの研究室
2	コツコツ骨展	1			生きもの研究室
3	標本展	1			生きもの研究室
4	チョウを探してみよう！	1			チョウの飼育室前
5	チョウの自由研究	1			チョウの飼育室前
6	チョウの超能力	1			チョウの飼育室前
7	チョウの飼育	1			チョウの飼育室前
8	イモムシ総選挙	1			チョウの飼育室前
9	冬のチョウの飼育	1			チョウの飼育室前
10	大温室のチョウ	1			チョウの飼育室前
11	ツシマウラボシジミ	1			大温室
12	石垣島の昆虫たち	1			むしむしコーナー
13	虫の親子関係	1			むしむしコーナー
14	カブトムシ・クワガタ	1			むしむしコーナー
15	鳴く虫	1			むしむしコーナー
16	カマキリ	1			むしむしコーナー
17	ゴキブリ	1			むしむしコーナー
18	奇々怪々な「蟲」	1			むしむしコーナー
	小 計	23	0	0	

また、これらの展示解説業務の他にも、来園者に対して質問・相談や展示解説を直接聞くレンジャートークを実施する場面を多く提供しました。解説員の常駐する生きもの研究室や飼育員が解説を行うプログラムなどで、質問・相談や展示解説を実施し、本年度は年間32,823回 50,879人に実施しました。

レンジャートークの年間対応数

(単位：回、人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
レンジャートーク	回数	3,518	3,594	2,528	2,827	3,241	2,489	2,843	2,810	2,003	2,062	2,140	2,768	32,823
	対応人数	7,026	7,173	5,048	5,643	3,367	6,467	5,672	2,657	2,024	1,701	1,690	2,411	50,879

2. 夜間特別開園の実施

(1) ホタル見 night!の夜間特別開園

6月6日から22日の金・土・日曜には特別イベント「ホタル見 night!」として夜間特別開園を行いました。実施中は18:00-21:00までの特別夜間開園のほか、大型展示ケースを使った室内での展示「ゲンジボタルの観賞会」を目玉企画として行いました。またホタルにちなんだ展示や「ホタルのガイドツアー」も行い、充実したイベント開催を目指しました。

「ホタル見 night!」に合わせて実施したプログラム実績

(単位：回、人)

内容	実施日	実施回数	対応人数		
			大人	小人	合計
ゲンジボタルの観賞会	6月6日～6月22日の金・土・日	9	6,686	4,380	11,066
ホタルのガイドツアー	6月6日～6月22日の金・土・日	8	511	265	776
	計	17	7,197	4,645	11,842

(2) 光の祭典夜間特別開園

11月29日～12月25日まで元洲公園で開催される「光の祭典」にあわせ、土・日曜に夜間特別開園を行いました。実施中は18:00-21:00までの特別夜間開園のほか、入れ替え性で行う「冬のホタル観賞会」を行いました。「冬のホタル観賞会」ではヘイケボタルの他、オオシママドボタルも展示しより多くの光を展示することができました。

また夜の温室を使ったプログラム「ナイトツアー熱帯の世界」も実施し、様々な楽しみ方が出来るように工夫しました。

「光の祭典」に合わせて実施したプログラム実績

(単位：回、人)

内容	実施日	実施回数	対応人数		
			大人	小人	合計
冬のホタル観賞会	11月29日～12月23日(土日祝)	9	2,053	1,258	3,311
ナイトツアー「熱帯の世界」	11月29日～12月23日(土日祝)	9	624	421	1,045
	計	18	2,677	1,679	4,356

3. 自主事業の実施

(1) 特別イベント

年に数回大規模な特別なイベントを行い、普段は体験できないような生きものとのふれあいや特別なプログラムを行いました。また期間中は公園を活用したプログラムも行いました。また特別イベントでは周知のため、ポスターの掲示やチラシの配布など広報も積極的に行いました。またオープニングキャンペーンやホタル見 night! では東武線沿線の車内での中吊り広告の掲示も行いました。

特別イベント開催内容一覧

	区分	内容	実施日
オープニングキャンペーン 4月1日～5月6日	展示	特別展「生きものタッチ展」	4月1日～5月6日
	プログラム	寄せ植え教室	4月5日～4月6日
		おもしろ生きもの講座「ストーンペイント」	4月6日
		おもしろ生きもの講座「川の生きもの探検」	4月6日
		おもしろ生きもの講座「里山の生きもの」	4月13日
		おもしろ生きもの講座「昆虫ドームツアー」	4月13日
		おもしろ生きもの講座「虫ガール座談会」	4月20日
		おもしろ生きもの講座「テントウムシコレクション」	4月20日
		おもしろ生きもの講座「折り紙作家in生物園」	4月26日
		公園の自然ウォッチング「公園でこすりだし」	4月27日
		らんちゅう倶楽部	4月27日
		探して！育てて！観察！ダンゴムシ	5月5日
		チリメンジャコの子ビ生物を探せ！	5月6日
	金魚すくい	5月3日～6日	
その他	マイタウンコンサート	5月3日	
	夜間特別開園	5月3日	
ホタル見night! 6月6日～6月22日	プログラム	ゲンジボタルの観賞会 ホタルのガイドツアー	6月6日～6月22日 の金・土・日
	その他	夜間特別開園	
夏休みキャンペーン 7月18日～8月31日	展示	特別展「とぶ！飛ぶ！跳ぶ！生きもの展」	7月18日～10月5日
	プログラム	海の生きものタッチプール	7月19日～8月31日
		昆虫標本教室	7月20日
		東京湾の干潟ウォッチング	7月26日
		セミの羽化観賞会	8月2日
		こども飼育員になろう！	8月4日
		里山の生きもの調査隊	8月6日～8月7日
金魚すくい	8月9日～8月10日		
冬のほっとキャンペーン 11月29日～12月25日	展示	クリスマス展	12月3日～12月25日
	プログラム	冬のホタル観賞会 ヒツジと記念撮影！	11月29日～12月25日 の土・日
		クリスマス馬車と記念撮影	
	その他	夜間特別開園	
	プログラム	移動動物園 蜜蝋キャンドルを作ろう	12月21日 12月23日
ニューイヤーキャンペーン 1月2日～2月1日	展示	お正月展	1月2日～2月1日
	プログラム	イカスミで書初め	1月18日
		ガラ・ルファ体験	1月2日～2月1日
		昼のホタル観賞会	1月2日～7日
		干支の引継ぎ式	1月3日
	その他	新年！小学生クイズ大会 年賀状コンテスト	1月4日 2月1日

● オープニングキャンペーン

本年度までは生物園が長期休園しており、4月より新たにリフレッシュオープンしました。そのため4月から5月のゴールデンウィークの間、オープニングキャンペーンとして集客力のあるプログラムや展示を企画しました。

「おもしろ生きもの講座」ではNHK Eテレの科学番組の出演者など生きもの専門家を講師に招き講演を行いました。子どもに人気の番組だったことから、講師を目当てに来園した参加者も多かったです。

ゴールデンウィーク期間中には恒例の人気イベント金魚すくいを開催し、連日会場は参加者で長蛇の列となっていました。

また期間中は特別展「生きものタッチ」展を行い、いつでも多数の生きものとのふれあい体験ができるようにしました。印象的な生きものとの触れあいを実施することで、生物園に強い印象を残し、リピーターの増加へと繋がるようにしました。

他にも桜の開花にあわせた4月4日から5日に元洲江公園を利用したイベント「花フェス」の開催を行いました。「花フェス」では寄せ植え教室や花の即売会を実施し、花を見に来た方々が自宅でも花を楽しめるようにしました。またこの期間中は足立区観光交流協会主催の花めぐりバスの運行が行われているため、花めぐりバスとの連携でバスの利用者限定のミゼットホース（小型馬）との記念撮影を行いました。

その他にも期間中にケータリングカーを呼び、お祭りのような雰囲気 연출し、より楽しんでいただけるように工夫しました。

(2) ふれあいプログラム

ふれあいプログラムは当日募集で、来園者が行える生きものへのエサやりや生きものに直接手でふれる体験ができるプログラムです。これらのような直接的な体験は、未就学児のような低い年齢層の来園者にも、効果的に興味や関心を引き出すことができます。

ふれあいプログラム内容一覧

(単位：回、人)

内容	実施日	実施回数	対応人数		
			大人	小人	合計
哺乳類ふれあいコーナー	毎日	318	48,818	57,460	106,278
生きものタッチ	4月1日～5月6日(毎日)	32	7,842	13,194	21,036
きっずルーム	4月16日～(毎日)	265	8,056	9,821	17,877
カブクワふれあい	7月5日～8月31日(土日)	19	486	600	1,086
海の生きものタッチプール	7月19日～8月31日(毎日)	43	6,159	6,184	12,343
クリスマス馬車と記念撮影	11月29日～12月23日(土日祝)	7	451	672	1,123
ガラ・ルファ体験	1月2日～2月1日(毎日)	27	1,758	1,697	3,455
カニ釣り	3月8日～(毎日)	20	549	844	1,393
昆虫のエサやり	毎日	248	1,387	2,001	3,388
爬虫類のエサやり	毎日	271	2,527	5,055	7,582
魚類のエサやり	毎日	579	6,168	6,193	12,361
ニシキヘビと写真撮影	毎月第2土曜日	10	253	338	591
チョウを放そう!	毎日	298	4,290	5,475	9,765
ポニー乗馬体験	年間数回	3	0	424	424
金魚すくい	年間数回	10	1,494	4,763	6,257
ヒツジと記念撮影	11月29日～12月23日(土日祝)	9	0	324	324
移動動物園	年間数回	2	1,332	999	2,331
出張生物園	年間数回	6	2,030	1,966	3,996
ミツバチの飼育	毎週日曜	8	69	96	165
計		2,175	93,669	118,106	211,775

本年度は19種類のふれあいプログラムを行い、計2,175回実施し211,775人に対応を行いました。哺乳類ふれあいコーナー、きっずルームなど毎日複数のふれあいプログラムを実施することで、展示に集中しにくい未就学児でも長時間楽しめるようになりました。

また普段はさわることのできない特別な生きものとの体験を行うプログラムを期間限定で行いました。特に「移動動物園」は普段生物園ではみられない哺乳類などを特別に展示するもので、アルパカやリスザル、シロフクロウなど愛嬌やインパクトの強い生きものを用意し間近で観察できるようにしました。また「ポニー乗馬体験」は元洲江公園の芝生広場をポニーに乗って一周するもので、子どもを対象に実施しました。どちらも生物園にはない取り組みで、当日はうれしそうに体験をするお客様の姿が見られました。

(3) 導入型プログラム

導入型プログラムは当日募集で気軽に楽しめるプログラムで、生きものに関心や興味を持った方をターゲットとしています。

導入型プログラム対応数一覧

(単位：回、人)

内容	実施日	実施回数	定員	対応人数		
				大人	小人	合計
生きものガイド	毎週土曜日(第3を除く)	39	各回15	201	298	499
ちびっこプログラム	毎週水曜日(祝祭日、夏休みを除く)	37	各回15	238	303	541
まーしー園長のガイドツアー	毎月第1日曜日	12	各回15	109	141	250
うらがわ探検ツアー	毎月第2日曜日	12	各回15	77	114	191
公園の生きもの探しツアー	毎月第4日曜日	12	各回15	37	91	128
チョウの飼育体験	不定期	5	設定せず	2	11	13
おもしろ生きもの講座「ストーンペイント」	4月6日	1	設定せず	3	45	48
おもしろ生きもの講座「川の生きもの探検」	4月6日	1	設定せず	20	31	51
おもしろ生きもの講座「里山の生きもの」	4月13日	1	設定せず	21	45	66
おもしろ生きもの講座「昆虫ドームツアー」	4月13日	1	50	24	27	51
おもしろ生きもの講座「虫ガール座談会」	4月20日	1	設定せず	25	40	65
おもしろ生きもの講座「テントウムシコレクション」	4月20日	1	設定せず	18	29	47
おもしろ生きもの講座「折り紙作家in生物園」	4月26日	1	設定せず	18	24	42
バタフライウォッチング	4月27日	1	20	10	8	18
探して！育てて！観察！ダンゴムシ	5月5日	1	15	0	8	8
チリメンジャコのチビ生物を探せ！	5月6日	1	20	11	13	24
探して！育てて！観察！チョウ	5月18日	1	15	0	20	20
ゲンジボタルの観賞会	6月6日～6月22日の金・土・日	9	設定せず	6,686	4,380	11,066
ホテルのガイドツアー	6月6日～6月22日の金・土・日	8	設定せず	511	265	776
探して！育てて！観察！「ミジンコ」	6月15日	1	15	0	20	20
探して！育てて！観察！「カタツムリ」	6月29日	1	15	0	14	14
探して！育てて！観察！「鳴く虫」	9月21日	1	15	0	8	8
骨ベスト	10月8日～11月30日(毎日)	33	設定せず	15	414	429
さわって！聞いて！体感！生きもの観察	10月13日	1	20	8	18	26
冬のホテル観賞会	11月29日～12月23日(土日祝)	9	設定せず	2,053	1,258	3,311
ナイトツアー「熱帯の世界」	11月29日～12月23日(土日祝)	9	設定せず	624	421	1,045
ワンニャン探検隊	12月23日	1	設定せず	0	119	119
ワンニャンフェイスイベント	12月23日	1	設定せず	2	29	31
カエルの観賞会	3月8日	1	20	10	11	21
ホテルの昼間観賞会	6月28日～7月13日(土日) 1月2日～7日	12	設定せず	1,849	1,669	3,518
寄せ植え教室	4月5日～6日	2	設定せず	16	0	16
らんちゅう倶楽部	年間4回	3	設定せず	170	303	473
計		220		12,758	10,177	22,935

本年度は年間で計 220 回 実施し 22,935 人に対応を行いました。定員を設けたプログラムの参加者率は目標である 100%にほぼ近い 99.5%でした。

一年を通し、定期的で開催したプログラムは 5 種類あり、生きものガイド、ちびっこプログラムなど全てが毎回テーマを変えて行っているプログラムで来るたびに新しい楽しみがあります。特別イベントや季節に合わせたテーマのプログラムも実施しました。

(4) 発展型プログラム

発展型プログラムは事前募集で、より深く生きものや自然について学べるプログラムで興味・関心の高い層をターゲットとしています。生物園内で実施するプログラムはもちろん、生物園から出て自然の多い環境で観察を行うプログラムも行いました。

発展型プログラム対応数一覧

(単位：回、人)

内容	実施日	実施回数	定員	対応人数			応募人数		
				大人	小人	合計	区内	合計	区内比率
家族でハチミツ搾り体験	6月22日	1	20	12	14	26	56	126	44.4%
昆虫標本教室	7月20日	1	30	1	26	27	16	41	39.0%
東京湾の干潟ウォッチング	7月26日	1	27	23	20	43	33	68	48.5%
セミの羽化観察会	8月2日	1	30	21	15	36	45	71	63.4%
こども飼育員になろう！	8月4日	1	15	0	13	13	10	13	76.9%
里山の生きもの調査隊	8月6日	1	27	0	27	27	30	39	76.9%
生物園に泊まろう！	9月14日	1	20	0	21	21	64	88	72.7%
やってみよう！魚拓作り	10月19日	1	20	0	22	22	11	25	44.0%
手羽先で骨格標本作り	11月16日	1	20	1	7	8	5	8	62.5%
蜜蝋キャンドルを作ろう！	12月23日	1	20	7	10	17	16	20	80.0%
イカスミで書初め	1月18日	1	20	0	15	15	9	16	56.3%
こども獣医さんになろう！	2月8日	1	20	0	15	15	8	15	53.3%
Dream night at the Zoo	3月28日	1	70	35	35	70	23	80	28.8%
計		13	339	100	240	340	326	610	53.4%

本年度は年間で計 13 回 実施し 340 人に対応を行いました。年間の総応募率は目標であった 120%を大きく上回る 179%でした。

本年度実施したプログラムでは生物園内はもちろん、生物園から出た屋外の自然の中で観察・体験するプログラムも行いました。「東京湾の干潟ウォッチング」は家族で参加できるプログラムで、家族で楽しく干潟の生きもの採集を行うことができました。「里山の生きもの調査隊」は夏休みに子どものみを対象としたプログラムで、子どもたちが探検隊となって里山の生きものを捕まえながら観察しました。

● ミツバチを利用した発展型プログラム

緑と花が豊かな足立区の特徴を生かし、ミツバチ飼育を活用したプログラム「家族でハチミツ搾り体験」「蜜蝋キャンドルを作ろう」を実施しました。これらのプログラムではハチミツ搾りや蜜蝋キャンドル作りをとおして、ミツバチの活躍や身近な緑の存在に気付いてもらいました。実際にアンケートでも高い関心と評価をいただいております。「ミツバチが花と花粉を集めていることが分かった」など周囲の緑に目を向けていただけようです。次年度以降もこのプログラムを継続し、人と生きものや環境共生について考えてもらうきっかけになったらと考えています。

● Dream night at the Zoo

Dream night at the Zooとはオランダ発祥のイベントで、夜の動物園や水族館に重病を抱えた方や体が不自由な方を招待し、楽しんでもらおうというものです。本年度足立区生物園ではこのDream night at the Zooを開催し、普段は安心して園を利用できない方々にも安心して利用できるようにしました。

開催中はただ公開するだけでなく、障がいのある方でも楽しめるようふれあいやガイドを行うコーナーを数多く用意しました。またすぐ休めるように休憩コーナーを広く取りました。また足立成和信用金庫様のご協力により軽食コーナーにてパンの提供を行い、好評いただきました。

開催中は「デイサービスでは利用したことがあるが家族では始めて」「普段は他の人の目が気になって利用できなかったのうれしい」などの好意的な意見を数多く聞き、実際ア

ンケートでも 15 票中「とても楽しかった」が 12 票、「楽しかった」が 3 票と非常に高い満足度をいただきました。

生物園にとって非常に意義のあるイベントのため、今後も Dream night at the Zoo を継続して開催します。

3. 区民協働活動の推進・支援

生物園は区民参加型の協働施設を目指しており、本年度も区民参加のボランティア活動を行いました。ボランティアは生物飼育の補助を行う飼育系のボランティア「昆虫飼育ボランティア」「チョウ飼育ボランティア」と、来園者への解説対応を行う「生きものふれあいボランティア」の計3つのボランティア運営を行いました

(1) 昆虫飼育ボランティア

昆虫飼育ボランティアはチョウを除く昆虫類飼育の補助を行うボランティアです。活動はカブトムシ飼育や昆虫ドーム整備を行う回(第4日曜日)と、飼育体験や標本作製などの講習を(第2日曜日)を月に1回ずつ行いました。

昆虫飼育ボランティア活動一覧

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
その他(第3週)	内容	説明会	チョウ飼育の基本	なし	なし	なし	なし	チョウ飼育応用編	なし	なし	なし	なし	ふりかえり	
	参加人数	23人	22人					24人					23人	92人
通常活動	回数	29回	29回	29回	27回	30回	27回	28回	27回	30回	21回	27回	27回	331回
	参加人数	101人	81人	90人	83人	94人	73人	65人	64人	66人	47人	64人	61人	889人
														計 981人

本年度は 15 人の登録があり、年間 23 回の 156 人の参加がありました。活動により屋外でのカブトムシ成虫の飼育や、来年度の飼育に必要な腐葉土を公園内の落ち葉から作成することができました。また月に一度の講習では「飼育を通じて今まで関心を持たなかったような昆虫にも興味を持つことができた」など昆虫に関する幅広い興味を引き出すことができ、活動への意欲向上につなげることができました。

(2) チョウ飼育ボランティア

チョウの飼育ボランティアはチョウの飼育や食草管理、バタフライガーデン管理の補助を行うボランティアです。活動はボランティア登録者が任意の日付と時間を選び活動を行うものです。また5月と10月にはチョウ飼育に関する座学を行っており、生物園で行われている基本的なチョウの飼育や、応用的な技術についてお伝えしました。本年度は 27 人の登録があり、年間 335 回のべ 981 人の参加がありました。活動により飼育用備品の作成や 2F のバタフライガーデンの植栽管理を充実させることができました。

今回登録している参加者の多くが昆虫飼育ボランティアと兼任していることから、来年度は両ボランティアの統合を行います。

チョウ飼育ボランティア活動一覧

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
その他(第2週)	内容	説明会	キリギリス	ハサミムシ	タガメ	カブトムシ	ミツバチ	カマキリ	標本作製	ゴキブリ	ホタル	コオロギ	ふりかえり	
	参加人数	10人	7人	10人	9人	6人	9人	8人	5人	7人	9人	7人	7人	94人
通常活動(第4週)	参加人数	なし	6人	4人	6人	5人	7人	6人	7人	6人	5人	6人	4人	62人
														計 156人

(3) 生きものふれあいボランティア

生きものふれあいボランティアは園内で行われているふれあいプログラムを中心に園内での解説活動の補助を行うボランティアです。活動は開園日のうち登録者が任意の日付と時間を選び活動を行うものです。また不定期で勉強会を行い、解説に必要な技術について伝えました。

生きものふれあいボランティア活動一覧

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
その他	内容	説明会	安全管理講習	なし	インタープリテーション	なし	なし	ふりかえり	なし	
	参加人数	31人	20人		10人			7人		68人
通常活動	回数	7回	17回	9回	8回	10回	5回	2回	10回	68回
	参加人数	32人	42人	25人	33人	17人	11人	6人	15人	181人
										計 249人

本年度は31人の登録があり、年間72回のべ249人の参加がありました。活動は来園者の多い土日祝を中心に行われ、ボランティア活動によりより多くの来園者に充実したふれあいや解説を行うことができました。またボランティア参加者の多くが生きものに対する関心が高く、活動を通じてより興味や知識を深めることができましたようです。

4. 団体対応

生物園では、幼稚園、小学校、中学校、介護施設などの一般団体、行政視察など年間を通してたくさんの団体・組織による利用があります。本年度はのべ718団体、計20,525人の利用があり、総来園者数の約10.4%を占めていました。希望のあった団体には解説員によるプログラム対応を行いました。

来園団体への対応以外にも、小学校へ出向いて実施する出張授業、中学校の職場体験や大学の実習、インターンシップについても受け入れを行いました。

(1) 団体プログラム対応

団体プログラムは来園した団体向けに生物園で行われるプログラムです。多数のプログラムを用意し、各団体にあったテーマや内容を選べるようにしました。また、要望があった場合はオリジナルのプログラムを行うこともあります。

団体プログラム対応一覧 (単位：回、人)

プログラム内容	回数	対応人数		
		大人	小人	合計
ウェルカム・お見送りトーク	43	259	3,560	3,819
クイズラリー	12	120	886	1,006
生物園ガイド	4	95	0	95
足立の生きものガイド	4	122	7	129
チョウの一生	6	30	399	429
生きものふれあい	5	29	52	81
その他	2	48	0	48
計	76	703	4,904	5,607

本年度、団体プログラム対応を行った団体は、のべ76回、計5067人でした。小学校には、園内の見どころや注意事項などを紹介する「ウェルカム・お見送りトーク」を実施し、より安全に楽しんでもらえるようにしました。

また「クイズラリー」や「生きものふれあい」を園内見学に合わせて利用することで、より教育的に効果が得られるようにしました。

小学校中学年の利用団体からは、チョウの一生や足立の昆虫など教育カリキュラムに適したプログラムの要望が多くありました。

(2) 出張授業対応

出張授業は区内の小学校を対象に、スタッフが学校に出張しプログラムを行うものです。本年度の出張授業対応は、小学校 計 6 校、460 人でした。「チョウの飼育体験教室」や「足立区の昆虫」など、小学校 3 年生理科の授業に合わせテーマの要望がありました。

出張授業対応一覧

実施日	団体名	プログラム内容	開催時間	大人	小人	合計
5月22日	足立区立弘道小学校	出張授業「チョウの飼育体験教室」	9:40-11:30	4人	46人	50人
6月12日	足立区立千寿第八小学校	出張授業「チョウの飼育体験教室」	13:40-15:15	3人	66人	69人
6月14日	足立区立千寿小学校	出張授業「チョウの飼育体験教室」	9:35-11:30	3人	66人	69人
9月1日	足立区立千寿小学校	出張授業「出張生物園」	9:35-10:20	26人	68人	94人
10月15日	足立区立洲江第一小学校	出張授業「足立区の昆虫」	10:25-11:10	3人	98人	101人
10月29日	足立区立東栗原小学校	出張授業「足立区の昆虫」	10:00-10:30	5人	72人	77人
合計 6団体				44人	416人	460人

(3) 実習対応

本年度は職場体験・訪問、インターン、学芸員実習、緑化企業実習と 5 種類の実習対応を行いました。

職場体験は、13 校 53 人に対応を行いました。実施中は園内のいくつかの業務を数日に分けて体験することができ、各種飼育や解説業務（プログラム・展示作成）などを体験しました。また体験後はそれぞれの適正に気付き将来設計に役立てられるよう振り返りを行いました。

職場体験対応一覧

実施対象	体験開始日	期間	対応人数	のべ対応人数
足立区立青井中学校	6月25日	2日間	4人	8人
足立区立第五中学校	6月25日	2日間	4人	8人
足立区立扇中学校	7月8日	3日間	4人	12人
足立区立第九中学校	7月8日	2日間	4人	8人
足立区立加賀中学校	7月15日	2日間	6人	12人
足立区立竹ノ塚中学校	8月26日	3日間	4人	12人
足立区立十四中学校	9月2日	3日間	4人	12人
足立区立花畑中学校	9月4日	2日間	4人	8人
足立区立第十中学校	9月25日	2日間	5人	10人
足立区立伊興中学校	10月7日	3日間	5人	15人
足立区立花畑北中学校	10月7日	1日間	4人	4人
足立区立西新井中学校	11月27日	2日間	4人	8人
草加市立谷塚中学校	1月21日	3日間	1人	3人
計			53人	120人

職場訪問対応一覧

職場訪問は 7 回 40 人に対応を行いました。ほとんどが動物園や水族館に関心のある生徒で、「生きものを仕事にする上で大切な事は何か？」など仕事に関する様々な質問に対応しました。

実施対象	実施日	対応人数
岐阜県海津市立日新中学校	5月9日	4人
足立区立花畑北中学校	5月23日	4人
足立区立栗島中学校	8月27日	12人
足立区立扇中学校	8月29日	4人
足立区立第十中学校	1月28日	6人
高知県立高知西高等学校	1月30日	5人
足立区立第五中学校	2月5日	5人
計		40人

インターンは専門学校や大学など 5 回 6 人に対応を行いました。全ての学生が生物学や飼育を専門にしている、キャリアアップのために実践的な飼育や解説体験を行いました。

インターン対応一覧

実施対象	体験開始日	期間	対応人数	のべ対応人数
大宮国際動物園専門学校	3月23日	9日間	2人	18人
東京コミュニケーションアート専門学校	4月28日	22日間	1人	22人
東京動物専門学校	10月20日	30日間	1人	30人
日本ペットアニマル専門学校	6月6日	15日間	1人	15人
琉球大学	9月2日	11日間	1人	11人
計			6人	96人

学芸員実習は大学での学芸員資格を取得するために必要な実習で、2 回 12 人に対応を行いました。実施では博物館に必要な展示やプログラム作成に対する講習や、生物飼育など複合的な講習や体験実習を行いました。

学芸員実習対応一覧

実施対象	体験開始日	期間	対応人数	のべ対応人数
帝京科学大学	7月19日	10日間	6人	60人
その他	8月1日	10日間	6人	60人
計			12人	120人

緑化企業実習は東京農業大学の実習で造園などの緑化に関する企業や施設での職業実習です。2回9人に対応を行いました。実習では公園の整備やチョウの食草管理などを中心に体験を行いました。

緑化企業実習対応一覧

実施対象	体験開始日	期間	対応人数	のべ対応人数
東京農業大学	9月1日	5日間	4人	20人
東京農業大学	3月23日	5日間	5人	25人
		計	9人	45人

5. 展示による解説

(1) 常設展示

足立区生物園には開園以来掲げているテーマ「ふれあい いのち 共生」があります。今年度はこれらのテーマを実現すべく、各テーマにそった常設展示を新たに行いました。

● であいの広場

生物園に入ってははじめに入るエリアです。生きものに出会うワクワク感を演出するため正面の大水槽には身近で足立区にもゆかりのある金魚を1,000匹以上入れた金魚の大水槽を展示しました。また出会いの広場の周囲にはリスのトンネルを張り巡らせていて、元気に走り回る姿が観察できます。

また各展示エリアへの看板も配置し、ここから各ゾーンへ遊びにいけるようにしました。



金魚の大水槽

● ふれあい

「ふれあい」では生きものとのふれあいから命の温かみを感じてもらうことを目的としています。「ふれあい」をテーマにした展示エリアは小動物ふれあいコーナー、オーストラリアドーム、きっずルームがあります。

小動物ふれあいコーナーは哺乳類とのふれあい体験ができる展示エリアで、モルモットをひざ上に抱いたり、ヒツジなどにエサやりができたりする直接ふれあいのできる場所です。未就学児の来園者も直接体験で楽しむことができました。

オーストラリアドームは足立区の姉妹都市、オーストラリア ベルモント市にちなんだ展示エリアです。カンガルーやワラビー、インコなどオーストラリアの動物たちを展示し、エサやりもすることができます。

きっずルームは未就学児でも安心して生物園を楽しめるように作った、未就学児限定のエリアです。またネコのふれあい体験も行っており、きままに過ごすネコの行動を観察することで他のふれあい動物とは違う動物の側面に気付いてもらうことを目的としています。

● いのち

「いのち」では観察・体験から命やそのつながりについて気付いてもらうことを目的としています。「いのち」をテーマにした展示エリアは生きもの研究室、観察展示室、チョウの飼育室、大温室、昆虫ドーム、むしむしコーナーがあります。

生きもの研究室は特別展や企画展を行う展示エリアで毎回違った展示を楽しむことがで

きます、また解説員が常駐する解説の拠点にもなっており、来園者に合わせた情報提供を行うことができます。

観察展示室は大小さまざまな水槽で生きもの生態や行動を楽しむことが出来る展示エリアです。大型の水槽はめぐりこめるようになっており、水槽で再現した生きもの世界が体験できるようになっています。また小・中型の水槽も生きもの行動や生態を観察しやすいように工夫しており、生きもの生き生きとした姿が観察できます。

チョウの飼育室は飼育員が常駐し飼育作業を行っている展示エリアです。チョウの成長過程が観察できたり、飼育員との直接のやり取りでチョウやその飼育への疑問にお答えができるようにしました。また前面では企画展を行っており季節にあった情報提供を行いました。

大温室は熱帯・亜熱帯を再現した展示エリアです。入ってはじめのエリアは熱帯環境に関する導入で、日本の亜熱帯気候の場所、琉球列島の生きものを紹介して亜熱帯気候の特異性に気付いてもらいました。また広い温室のエリアでは巨大なアマソンの魚が泳ぐ水槽や、ジャングルのように熱帯植物が生い茂る環境を飛び回るチョウなど、熱帯・亜熱帯に入り込んで体験できるような展示エリアになっています。

昆虫ドームは里山を再現した屋外の展示エリアで、季節ごとに昆虫の生活を観察することができます。特に夏に見られるカブトムシなどの雑木林の昆虫は人気が高く、オス同士のカ比べの際は歓声があがるほど盛り上がっています。

むしむしコーナーは昆虫に関する企画展を行う展示エリアで、季節ごとにテーマにそった昆虫の展示を行いました。



昆虫ドーム

● 共生

「共生」では身近な自然や生きものから自然と人との共生について考えるきっかけを提供することを目的としています。「共生」をテーマにした展示エリアにはバタフライガーデン、庭園、あだちの自然観察室、ミュージアムショップ・休憩コーナーがあります。

バタフライガーデンでは庭にチョウの集まる植物を植えチョウを呼び込むバタフライガーデンを2Fのデッキに展示し、生きものとの共存を提案している展示エリアです。季節になると咲き乱れる花にチョウなどの昆虫が集まりました。

またここではミツバチの飼育を周年展示しており、身近な自然について考えるきっかけになっています。ミツバチ飼育は展示だけでなくプログラムやショップの商品としてのハチミツ販売にも活用されています。



ミツバチの飼育

庭園は草原や池、雑木林などの環境を用意し、そこに集まる生きものを観察できる展示です。春はたくさんのオタマジャクシが泳ぎまわったり、夏にはトンボやチョウ、セミなどが飛び交う場所になり、来園者はそれらの生きものを観察し追いかけている姿が見られました。足立区でも見られる里山の鳥類たちも展示しており、身近な生きものたちに目を向けてもらう場になっていました。

あだちの自然観察室では、現在足立区で見られる生きものと、かつて足立区で見られた

生きものを展示し、足立区の生きものの多様性や環境の変化に気付いてもらうことを目的とした展示エリアです。合わせて区内の公園の生きものの楽しみ方を紹介することで、屋内の展示から区内の公園へ遊びに行きたくなるように工夫しました。

● 種名板・キャプション

展示をより楽しめるよう、生きものの特徴や観察のポイントをまとめた展示を合わせて行いました。

種名板は展示している生体に設置した小型の解説板で、生体の名前や写真はもちろん、分布や特徴に関する解説文を掲載することで、生体を観察したときの興味をすぐに引き出せるようにしました。本年度は342種分の種名板を作成し展示しました。

種名板作成一覧

分類	種数
昆虫	125
甲殻類	20
魚類	88
両生類	25
爬虫類	26
鳥類	7
哺乳類	13
その他	38
計	342



また観察ポイントや楽しみ方を紹介したキャプションを作成し、定期的に更新しました。内容は子どもでも分かりやすい内容のものを短い文といっしょに紹介しました。

またキャプションで紹介しきれなかった内容は、QRコードを使って生物園のホームページの特集ページへ誘導し、より深い内容を知ることができます。



QRコードを使った解説板

(2) 企画展・特別展

来園者がいつ来ても新鮮な内容で楽しめるように定期的に入れ替える展示を、企画展・特別展として園内各所で行いました。

● 企画展

企画展は比較的小規模な展示です。今年度は18回の企画展を生きもの研究室やむしむしコーナー、チョウの飼育室、大温室などで行いました。

なかでも、むしむしコーナーでは昆虫のグループや生態、外見などさまざまな視点のテーマの企画展を、動画やハンズオンを使いながら効果的に展示しました。

企画展一覧

タイトル	展示場所	開始	終了
標本展	生きもの研究室	5月10日 10月8日	7月13日 11月30日
両生類展	生きもの研究室	5月10日	7月13日
コツコツ骨展	生きもの研究室	10月8日	11月30日
石垣島の昆虫たち	むしむしコーナー	4月1日	6月1日
虫の親子関係	むしむしコーナー	6月4日	6月29日
カトムシ・クワガタ	むしむしコーナー	7月2日	8月31日
鳴く虫	むしむしコーナー	9月3日	10月5日
カマキリ	むしむしコーナー	10月8日	11月3日
ゴキブリ	むしむしコーナー	11月6日	12月28日
奇々怪々な「蟲」	むしむしコーナー	1月2日	3月29日
チョウを探してみよう!	チョウの飼育室	4月1日	7月13日
チョウの自由研究	チョウの飼育室	7月18日	10月5日
チョウの超能力	チョウの飼育室	10月6日	12月2日
チョウの飼育	チョウの飼育室	4月1日	9月21日
イモムシ総選挙	チョウの飼育室	12月3日	2月1日
冬のチョウの飼育	チョウの飼育室	2月3日	3月29日
大温室のチョウ	大温室	9月22日	3月18日
ツシマウラボシシジミ	大温室	5月14日	5月20日
		7月10日	7月21日
		9月8日	9月25日



奇々怪々な蟲展



においを使ったハンズオン展示



子育て行動を見せる生体展示

● 特別展

特別展は特別イベントや特別な生体展示と合わせて開催する展示で、本年度は5回開催しました。全ての特別展が生きもの研究室全体を使って開催しました。生きものタッチ展やお正月展、クリスマス展のように季節感やお祭り感を演出した特別展や、とぶ！飛ぶ！跳ぶ！生きもの展や奇想天貝展のように生きものものの行動や生態を深く紹介するような特別展も開催しました。

特別展一覧

タイトル	展示場所	開始	終了
生きものタッチ展	生きもの研究室	4月1日	5月6日
とぶ！飛ぶ！跳ぶ！生きもの展	生きもの研究室	7月18日	10月5日
クリスマス展	生きもの研究室	12月3日	12月25日
お正月展	生きもの研究室	1月2日	2月1日
奇想天貝展	生きもの研究室	2月3日	3月29日



生きものタッチ展



奇想天貝展

展示中は生体のふれあいや、カードゲーム等のハンズオン展示などの参加できる展示を心掛けました。親子や友人で楽しむ姿が見られ、展示テーマへの興味を引き出すきっかけにもなりました。

6. 印刷物による解説

(1) セルフガイド

セルフガイドは生物園の展示をより楽しめるような生きものなどに関する情報や家庭でできるプログラムや生きもの飼育についてまとめた配布物です。A4白黒三つ折で、手軽に持ち帰ることができるようになっています。

セルフガイド配布状況一覧

No	セルフガイドタイトル	配布数												合計		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1	きらわれもののいきものたち	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	しいくシリーズ① カブトムシ	100	0	0	379	381	0	0	0	0	0	0	0	0	0	860
3	バタフライ・ウォッチング	183	97	0	58	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	360
4	イヌ 人とであう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	流水の天使クリオネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	140	0	200
6	標本をつくろう！カブトムシ編	0	117	90	113	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	340
7	荒川とそこにすむ魚たち	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	標本をつくろう！チョウ編	60	103	48	79	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	350
9	魚のロジまん	0	0	11	49	100	0	0	0	0	0	0	20	0	0	180
10	ハチのふしぎのせかい	0	0	100	60	100	91	49	0	0	0	0	0	40	0	440
11	干潟のいきもの	0	0	0	22	158	40	0	0	0	0	0	40	105	0	365
12	のぞいてみようミクロの世界	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40
13	ホテルのふしぎ	256	404	332	108	220	177	143	60	32	15	123	85	0	0	1,955
14	うんちのひみつ	0	27	0	13	120	20	19	41	0	40	40	0	0	0	320
15	アリの世界	0	0	120	80	280	240	200	60	9	31	100	160	0	0	1,280
16	水生昆虫大研究	299	361	75	156	309	205	196	75	37	44	242	137	0	0	2,136
17	チョウのうんこ染めに挑戦	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40
18	鳴く虫のはなし	0	0	0	26	54	257	103	20	0	0	0	0	0	0	460
19	カエルがわかる	396	359	87	103	212	139	66	53	22	0	160	83	0	0	1,680
20	虫の冬ごし	0	0	0	0	0	0	0	32	71	37	36	96	28	0	300
21	東京の生物多様性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	ハットおどろく菌のはなし	0	49	31	0	0	20	0	0	26	30	47	34	0	0	237
23	生きもの伝説ウソ?!ホント?!	40	0	40	0	0	49	51	56	10	33	101	40	0	0	420
24	セミの観どころ 見分けどこ?!	0	0	0	182	318	20	0	0	0	0	0	0	0	0	520
25	みつけてかんさつダンゴムシ	159	181	0	0	20	80	69	48	23	0	0	85	0	0	665
26	生きものっていい漢字!	60	0	0	0	0	54	46	0	27	27	65	75	0	0	354
27	イモムシのエサさがし!	50	140	0	0	40	44	69	65	2	0	10	30	0	0	450
28	むしとりをしよう!	0	76	84	70	170	80	20	0	0	0	0	2	0	0	502
29	金魚を飼う	0	0	0	0	0	0	20	92	57	47	97	105	0	0	418
30	とぶ飛ぶ跳ぶ生きもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	73	0	0	158
31	カマキリを飼う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	0	0	0	82
合計		1,603	1,914	1,018	1,498	2,664	1,516	1,083	641	282	303	1,286	1,304	0	0	15,112

今年度はセルフガイドを 15,112 部 配布しました。配布したセルフガイドの種類は 31 種類のうち 3 種類は新規に作成したものです。新規に作成したセルフガイドは飼育の仕方を紹介する「金魚を飼う」「カマキリを飼う」と、特別展に連動したセルフガイド「とぶ！飛ぶ！跳ぶ！生きもの」を発行しました。特に「金魚を飼う」は評判がよく、秋に行った金魚すくいと同時に配布することで、飼う時に参考になるとの意見もありました。



(2) ニュースレター

ニュースレターは A4 両面フルカラーの印刷物で、表面は生物園の展示やプログラムなどのイベント案内を中心とした広報媒介とし、裏面には解説的な内容を掲載しています。広報媒介に解説的な内容を織り込むことにより、ニュースレターをより読みたくなるようにしました。

ニュースレター裏面のコラム一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一面記事	無料開園	よろしくねキャンペーン	ホテル見Night!	海の生きものタッチプール	金魚すくい	鳴く虫展
生きものみどころ情報	キンギョ	タイガーサラマンダー	クロカタサウムシ	オオバタン	グラントシロカブト	ヤマトシジミ
解説員のひとりごと	オープニングキャンペーン情報掲載のためなし	ある日の生物園	ケロ活中!	夏はザリガニ釣り!	忍者に遭遇	カンガルーとの思い出
ちょっとひといき		ミツバチの巣の形クイズ	クロペンケイカニを探そう	生きもの名前さがし	昆虫シルエットクイズ	ネコの迷路
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一面記事	カマキリ展	コツコツ骨展	クリスマスイベント情報	お正月展	奇想天具展	ボランティア募集
生きものみどころ情報	フクロウ	クサガメ	オオイカリナマコ	ガラルフア	ウスタビガ	シマヘビ
解説員のひとりごと	ダンスショーは静かに観察	季節の楽しみ方	わたしのお気に入り!	しぐさを観察	クス喰う虫も好きずき	冬の夜の夢
ちょっとひといき	昆虫の翅クイズ	生物園生きものワードパズル	アズマヒキガエルの間違い探し	生きものクロスワードパズル	節分生きもの探し	ひな祭り生きものクイズ

裏面の内容にはそのときに見ごろの生きものについて紹介した「生きものみどころ情報」、スタッフの目線で生きものや自然の楽しみ方を紹介する「解説員のひとりごと」、クイズやゲームなどのお楽しみ要素を生物園風に作成した「ちょっとひといき」の計 3 コラムを掲載しました。



ニュースレター裏面レイアウト(左:8月号 右:12月号)

7. 連携事業

元漕江公園・生物園では周辺の地域や企業・団体と連携した施設運営を行うことで、地域に愛され利用される施設を目指しています。今年度は元漕江公園・生物園利用連絡協議会をはじめさまざまな施設・企業・団体との連携を行いました。

● 元漕江公園・生物園利用連絡協議会

元漕江公園・生物園利用連絡協議会は地域の利用者や企業、団体、学校と意見交換会を行い、要望や意見を汲み取り利用促進やサービス向上につなげるものです。今年度は多様な業種の企業が集まり、生物園ミュージアムショップのお土産開発について話し合う「生物園お土産研究会」を開催しました。お土産開発をきっかけに足立区内のものづくり企業と関係団体が協力して足立ブランドの発展、独自の商品開発を推進することを目的としており、7月31日と3月4日の2回開催しました。

7月31日「お土産研究会」はリニューアルオープン後初めてのお土産研究会だったこともあり、生物園側から新商品の提案に対して、御意見やアドバイスをいただくという形をとりました。実際に区内のNPO法人エコロジー夢企画からは「生物園のいきものの足跡が捺せるスタンプを作りたい」というご提案をいただき、共同でスタンプの開発を進めることになりました。また、足跡スタンプ発売に合わせて、タブレットで遊べる「足跡クイズ」を作成するというご提案もあり、生物園で足跡の提供とクイズの問題作成等を行っています。



提供した足跡(モルモット)

3月4日の会では、企業からの報告や提案を主軸に行いました。これまで開発した商品について企業側から制作の経緯や、新たな商品の案の発表が行われました。

また有限会社プリントアートの島崎様から、「新商品の開発において心がけるべき点、発想のしかた」というテーマで講演を行っていただき、新商品を生み出す発想のしかたや販売戦略についてお話ししていただきました。

終了後のアンケートでは参加者全員が「次回も案内を送って欲しい」と回答しており、満足度の高さと参加者の意欲が伺えます。来年度以降も年に2回程度のペースで実施していきたいと考えています。

● 地元企業・施設との連携

ミュージアムショップでは区内の企業・施設との連携を積極的に行っています。今年度は、障がい者作業施設2か所（花畑共同作業所、西伊興ひまわりえん）、焼きたてパン工房サンベルゴ、(有)篠原刃型と新たに取引を開始しました。

花畑共同作業所は菓子の製造や袋詰めなどを行う施設です。生物園では年間7種類のクッキーを仕入れています。チョコチップやココアなどの定番の味はもちろん、春は桜味や冬は雪をイメージしたミルクボールなど季節



花畑共同作業所のクッキー

限定の商品も販売しました。

また販売以外でも、生物園で作業所のイベント「はなさくまつり」のポスターを掲示するなど他方での協力も行っています。



西伊興ひまわり園のドライフルーツ

西伊興ひまわり園は食品乾燥や製品組み立てなどを行う施設で、生物園ではドライフルーツを仕入れています。果物を添加物を使用せずにそのまま乾燥させるため安全安心な食品です。また夏はスイカ、秋は梨と柿、冬はイチゴなど期間限定の商品があり季節感を演出する効果もありました。小さなお子様を連れた利用者からは「子どもに安心して食べさせられる」「体に良さそう」など、好評をいただきました。

焼きたてパン工房サンベルゴは、新商品「いきものパン」発売にあたり、中小企業支援課のマッチングクリエイターの方に紹介していただいた地元のパン屋さんです。生物園オリジナルの「いきものパン」に加え、足立区産小松菜粉末(西伊興ひまわり園製造)を使用したパンなどを仕入れ、土日限定で販売しています。以前から軽食に関する要望が多くあったのでお客様からも好評をいただきました。また Dream night at the Zoo への商品協力など関係を深めています。



サンベルゴの生きものパン

(有)篠原刃型は、以前から生物園でワークショップを開催するなどかわりがありました。ショップでの販売は行ってきませんでした。今年度からは委託販売という形で「革でつくるアニマルクラフト」を取り扱うことになりました。販売数は少ないものの、地元企業や商品の知名度アップには貢献できました。

● ギャラクシティとの連携

ギャラクシティは西新井にある児童文化・科学施設です。生物園に位置が近く、来園者の多くが未就学児や小学生とその保護者であり、利用者のターゲットに近い施設です。しかし生物園の来園者はギャラクシティを周知していることが少なく逆も同様なため、お互いの連携を行うことで来園者増を狙うことができます。今年度は相互プログラム協力や、展示協力、相互告知協力などを行いました。

相互プログラム協力では、生物園の昼のホタル観賞会にあわせてギャラクシティの「出張プラネタリウム」を開催しました。またギャラクシティではモルモットにふれあえる「出張生物園」や周辺のダンゴムシを捕まえて育てる「探して！育てて！観察！ダンゴムシ」を実施しました。実施した結果、目新しい雰囲気を出し、お互いの施設の周知につなげることができました。

ギャラクシティとの連携プログラム一覧

日付	内容	主催	参加者		
			大人	小人	
7月5日	(土)	出張プラネタリウム	足立区生物園	0	329
7月6日	(日)	出張プラネタリウム	足立区生物園	0	297
11月3日	(月)	探して！育てて！観察！ダンゴムシ	ギャラクシティ	0	38
11月24日	(月)	出張生物園	ギャラクシティ	200	268

またギャラクシティで生物園の生きものを使った展示「あだちの水辺の生きもの展」を2月10日から3月8日まで開催し、展示と同時に生物園のパンフレットやセルフガイドの配布を行いました。ギャラクシティでの生きものを使った展示はないため、珍しさから多くの来園者が集まり、生物園の周知につながることができました。

またそれ以外にもホタル見 night!など大きなイベントのある場合はポスター掲示やチラシの配布を行いました。

● 足立区主催のイベントとの連携

足立区主催の元漕江公園・生物園を利用したイベントや区内の施設や公園でのイベントお祭りの際は、プログラム実施などの連携を行いました。

マイタウンコンサートや光の祭典などの夜間に行われたイベントの際は、生物園を夜間特別開園にし、イベントとともに生物園も楽しめるようにしました。さらに光の祭典ではホタル観賞会を行うなど連携した特別なプログラムも実施しました。

連携イベント一覧

日付	イベント	主催	開催場所	協力内容
4月5日～6日	花めぐりバス	立区観光交流協会、足立区、東京都建設局、東京都交通局、(公財)東京都公園協会	足立区生物園	入園料免除、限定プログラム
5月3日 (土)	マイタウンコンサートin生物園	公益財団法人 足立区生涯学習振興公社	足立区生物園	夜間特別開園、会場提供、告知など
5月5日～6日	五色桜祭り	足立都市農業公園パートナーズ	都市農業公園	金魚すくい
5月11日 (日)	第40回足立子どもまつり	足立子どもまつり実行委員会	元漕江公園	会場提供、告知など
5月31～6月1日	地球環境フェア	足立区、足立区温暖化防止区民会議実行委員会	足立区役所本庁舎	出張生物園
6月7日 (土)	親子でホタルガイドツアー	竹ノ塚地域生涯学習センター	足立区生物園	団体プログラム対応、会場提供など
7月12日 (土)	父子でわくわく！生きものふれあい教室	足立区男女参画プラザ	足立区生物園	団体プログラム対応、会場提供など
11月9日 (日)	公園まるごとおもちゃ箱	公園おもちゃ箱の会・足立区	元漕江公園	会場提供、告知、ポニー乗馬開催など
11月29日～12月25日	光の祭典	足立区観光交流協会	元漕江公園・足立区生物園	夜間特別開園、ホタル観賞会など
2月28日～3月1日	梅祭り	足立区公園整備課	大谷田公園	出張生物園

公園まるごとおもちゃ箱では企画会議に出席し、よりよい協力体制について協議を行いました。本番の11月9日には事前の告知や会場提供はもちろん、生物園ブースとしてポニー乗馬体験を実施しました。

生物園を出た外の公園での連携も行いました。足立区役所本庁舎・中央公園での地球環境フェアや、大谷田公園での梅まつりなど大きなイベントやお祭りの際に出張生物園などのプログラムを行いました。実施の際は、生物園のポスター掲示やパンフレットなどの配布を行いました。

● 区内商業施設との連携

区内の商業施設との連携も行いました。西新井の商業施設西新井パサージュにて出張生物園を年間4回行いました。出張生物園ではモルモットなどの哺乳類とのふれあいや、生物園の生きものや標本を多数用意しました。生物園のポスター掲示やパンフレットなどの配布を行い、翌週にはパサージュの展示を見て来たという来園者もいました。

● 日本動物園水族館協会・全国昆虫施設連絡協議会との連携

日本動物園水族館協会と全国昆虫施設連絡協議会は日本国内の生物の飼育展示を行っている施設の連携を目的として作られた会で、情報交換や生物の交流などを行っています。両会との積極的な連携を行うことでより効率的で効果的な生物園の運営を行うことができます。

両会とも飼育や展示技術などの向上のための情報交換を行う会を行っており、本年度は12回の会議に出席し、そのうち3回発表を行いました。

出席会議と発表内容一覧

日付	会議名	担当園館	区分	発表した演題目
5月22～23日	平成26年度公益社団法人日本動物園水族館協会通常総会・協議会	静岡市立日本平動物園	全国	
7月9～11日	平成26年度全国昆虫施設連絡協議会	丸瀬布昆虫生態館	全国	平成25年度特別展「むしむしガール むしボーイ」の展示について
9月24～26日	第24回日本動物園水族館設備会議	京都水族館	全国	
9月24日(木)	第1回関東東北・北海道合同ブロック動物園技術者研究会	井の頭自然文化園	関東東北・北海道	
10月6～7日	平成26年度第1回関東・東北ブロック動物園水族館館長会議	鶴岡市立加茂水族館	関東・東北	
10月14～16日	第62回動物園技術者研究会	愛媛県立とべ動物園	全国	乳幼児を対象としたプログラム「ちびっこプログラム」の実施状況について
10月16～17日	平成26年度関東東北・北海道ブロック合同事務主任者会議	鶴川シーワールド	関東東北・北海道	
11月5～6日	平成26年度関東・東北ブロック水族館技術者研究会	アクアマリンふくしま	関東・東北	
11月5～6日	第26回日本動物園水族館両生爬虫類会議	静岡市立日本平動物園	全国	
12月13～14日	第55回日本動物園水族館教育研究会	仙台市八木山動物園	全国	「生きものふれあいボランティア」の活動状況
2月16～17日	平成26年度第2回関東東北・北海道ブロック動物園水族館館長会議	札幌市円山動物園	関東東北・北海道	
1月9日(金)	第2回関東東北・北海道合同ブロック動物園技術者研究会	サンシャイン水族館	関東東北・北海道	

これらの会に出席することで生物園の取り組みについて全国の園館に周知できました。また実際にこれらの交流をきっかけに昆虫の交易を行いました。

交易内容一覧

收受先	交易回数	個体数	交易種
伊丹市昆虫館	2	32	コノハチョウ、ハナカマキリなど
ぐんま昆虫の森	5	112	ハナカマキリ、コモンフラワーマンティスなど
丸瀬布昆虫生態館	1	2	ニジイロクワガタ
箕面公園昆虫館	3	81	ヒメカマキリ、アルゼンチンモリゴキブリなど

譲渡先	交易回数	個体数	交易種
檀原市昆虫館	1	50	リュウキュウアサギマダラ
ぐんま昆虫の森	3	151	シロオビアゲハ、アオタテハモドキ、オオカマキリ
北杜市オオムラサキセンター	7	678	ナミアゲハ、クロアゲハなど
智光山こども動物園	1	44	クロカタゾウムシ、シロモンオオサシガメなど

本年度の交易は年間で7施設と行い、收受11回 譲渡12回が行われました。交易が行われた昆虫は、各施設で余剰したものや入手が難しいものなどです。生物園では收受した種を企画展などで展示活用することができました。



ハナカマキリの生体展示
(カマキリ展)



ニジイロクワガタの生体展示
(カブトムシ・クワガタムシ展)

● 株式会社ヨシダとの連携

生物園を象徴する生きものの一つに金魚に関する企業からの協力もありました。生物園を代表する水槽の一つ金魚の大水槽では1,000匹以上の金魚が泳ぎまわっていますが、金魚販売の老舗「株式会社ヨシダ」（金魚の吉田）様より金魚の寄贈をいただくことができました。

これは足立区社会福祉協議会の中田貢弘会長が株式会社ヨシダ代表取締役の吉田信行様に生物園を紹介していただいたことをきっかけにしております。「株式会社ヨシダ」様より18品種 114匹の金魚を寄付していただき、生物園の金魚の大水槽にて展示することができました。またこの寄贈に対しては近藤やよい足立区長から感謝の意をこめて、株式会社ヨシダ代表取締役の吉田信行様へ感謝状と今回寄付された 14 品種の金魚と会社の説明を記載したパネルが贈呈されました。

今後も生物園の顔となりつつある金魚を使ったイベントや展示を行い、イメージ向上へとつなげたいと思っています。

VI 広報活動

生物園の広報活動は、2つの目的があります。1つは、広く情報を発信していくことで、より多くの方に生物園を知っていただき、利用してもらおうということ。もう1つは、定期的な情報発信によって、リピーターの再来園につなげるということです。

生物園では、各種メディアへの掲載、ホームページによる情報発信、ポスター・チラシ等による情報発信という、大きく3つの広報活動を行うことで、来園者数の増加を目指しています。

1. メディア対応・掲載等の実績

メディアへ取り上げられる事は、生物園をより多くの人へ知ってもらうという点で最も大きな役割を果たします。この時重要なのは、メディアへ取り上げられる回数の多さと、掲載・放送内容が読者や視聴者にとってどれだけ魅力的なものかということです。

● 今年度の掲載実績

今年度は、160件のメディア掲載がありました。その内訳は、情報誌が69件と最も多く、その後に新聞(37件)、TV(31件)、WEB(14件)、書籍(6件)、その他(3件)が続きました。

H26年度 新聞への情報掲載実績

メディア名	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
足立朝日	1	・	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
足立よみうり	1	・	1	1	1	・	・	1	・	・	・	・	・	5
朝日新聞 東京総局	・	・	・	・	1	1	・	・	1	・	1	・	・	4
産経新聞 都内版	・	・	・	1	・	・	2	・	・	・	1	・	・	4
東京新聞	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
東京新聞 下町支局	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・	1
日本経済新聞	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
毎日新聞	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
毎日新聞 都内版	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
読売新聞 東京版	・	・	1	1	1	1	・	1	・	・	・	・	・	5
読売新聞 江東支局	・	・	・	1	1	・	・	・	・	1	・	・	・	3
	2	1	6	5	5	3	3	3	2	3	3	1	・	37

H26年度 TVへの情報掲載実績

メディア名	月												計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
J:COM足立	2	1	3	2	1	2	2	・	5	1	2	1	・	22
CSテレビ朝日	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	1
NHK Eテレ	・	・	・	1	・	・	・	・	・	1	・	1	・	3
NHK 総合	・	・	1	・	・	・	・	・	1	・	・	・	・	2
フジテレビ	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1
日本テレビ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1
WOWOW	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	1
	2	2	4	3	2	2	2	0	6	2	2	4	・	31

H26年度 WEBへの情報掲載実績

	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
産経新聞 WEB版	.	.	1	1	.	.	1	.	.	.	1	.	4
JR東日本「旅どきnet」	.	1	1
teniteo	.	1	1
あだち観光ネット	1	1
キタコレ!	.	.	1	1
タイムアウト東京	.	1	1
東京新聞 WEB版	1	.	.	1
東京の観光 WEB	1	.	.	1
日本経済新聞 WEB版	1	1
るるぶドットコム	1	1
ビュー坊のあだちナビ	1	1
	1	3	2	1	1	0	2	1	0	2	1	0	14

H26年度 書籍への情報掲載実績

	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
るるぶ足立	1	.	1
るるぶ 東京遊び場コンプリートガイド	1	.	.	1
散歩の達人	.	.	1	1
水族館びあ	1	1
都市出版 東京人	.	1	1
夏びあ2014 首都圏版	.	1	1
	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	6

H26年度 その他メディアへの情報掲載実績

	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
あだちの花火パンフレット	.	.	.	1	1
観光交流課制作チラシ	1	1
東京交通局発行 おでかけパスも パンフレット	.	.	.	1	1
	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3

● 大手メディアの影響力

本年度は「フジテレビ」や「日本テレビ」など、影響力の強い TV で生物園が取り上げられました。中でも最も反響のおおきかった番組は 5 月に放送された「フジテレビ 有吉くんの正直さんぽ」で、入園者数の増加はもちろん、全国から生物園の HP へアクセスがあったり、電話での問い合わせが急増したりしました。

また、5～6 月には複数の大手新聞や、WEB サイト、情報誌へ「ホテル見 night!」や生物園のホテル飼育に関する掲載があり、7 月には様々な情報誌へ「夏休みキャンペーン（特別プログラム）」の情報を掲載していただきました。

この結果、生物園認知度の増加、新規来園者の獲得につながったと考えられます。

● 定期的な情報掲載の効果

複数のメディアに定期的にイベント情報を掲載していただきました。情報誌では「あだち広報」や「竹の塚地域学習センター ミニコミ紙」・「保塚地域学習センター ミニコミ紙」、新聞では「足立朝日」、TV では「J:COM 足立」です。

全て足立区内のメディアですが、この結果、区内レポート利用の増加につながったと考えられます。定期的な情報掲載は、園からの情報配信をもとに行われることが多く、今後は配信する情報の全体的な見やすさ、言葉のわかりやすさ、写真の美しさの質を高め、定期掲載の効果増加を目指したいと思います。

● 情報配信

計 22 種類の情報配信を行いました。原則毎月 1 回、その月のイベント情報を配信したほか、話題性のあるものについては個別にプレスリリースを配信しました。

配信先は平成 27 年 3 月 31 日現在で 22 件です。4～1 月半ばまでは 20 件に配信し、1 月下旬と 2 月に、新聞社を 1 件追加しました。

H26年度 情報発信記録		※定期発信先はリスト参照	
発信日	発信先	内容	備考
4月1日	定期配信(20件)	5月イベント情報	
4月24日	プレスリリース(20件)	ホテル	
4月30日	定期配信(20件)	6月イベント情報	
5月31日	定期配信(20件)	7月のイベント情報、生物園の夏休みキャンペーン!	
6月25日	プレスリリース(8件)	ホテル観賞会	新聞社のみ配信 ※すでに掲載依頼のあった新聞社は除く
6月30日	定期配信(20件)	パン、フクロウ、8月のイベント情報	
8月3日	定期配信(20件)	9月のイベント	
8月25日	プレスリリース(2件)	10万人達成	足立朝日、足立よみうりのみに配信
9月1日	定期配信(20件)	10月のイベント	
10月8日	定期配信(20件)	冬のほっとキャンペーン(11、12月のイベント)	
11月5日	プレスリリース(18件)	冬のホテル観賞会in光の祭典	
12月5日	定期配信(20件)	ニューイヤーキャンペーン(1、2月のイベント情報)	
1月4日	定期配信(20件)	2月のイベント情報	
1月31日	定期配信(21件)	3月のイベント情報、いもむし総選挙結果	
2月4日	プレスリリース(10件)	奇々怪々な蟲の缶バッジ	新聞社のみ配信
3月3日	プレスリリース(22件)	4月のイベント情報、春のふれあいキャンペーン	
3月17日	プレスリリース(11件)	ドリームナイト・アット・ザ・ズー	新聞社のみ配信

H26年度 情報配信先

No.	配信先名
1	ケーブルテレビ足立
2	足立朝日
3	足立よみうり
4	産経新聞 エス・マップ企画編成部
5	サンケイリビング新聞社 東葛本部 編集部沿線リビング担当
6	朝日新聞 東京総局 とうきょうマリオン担当
7	松戸市立博物館友の会
8	読売新聞 江東支局
9	毎日新聞 とうきょう支局
10	株式会社 ばど
11	読売新聞 東京本社 シティライフ編集室
12	竹の塚地域学習センター(株式会社トミテック)
13	毎日新聞社会部 東京支局
14	保塚地域学習センター
15	Dokka!おでかけ探検隊(関東版)
16	株式会社クリエイト 越谷営業所
17	CALANDRIA有限会社
18	モグラ企画
19	東京新聞ショッパー さいたま支社
20	有限会社ジュークジョイント
21	東京新聞 したまち支局
22	サンケイリビング新聞社 東京本部

※網掛けは今年度新規配信先

● 情報配信の効果

定期的なイベント掲載に役立っていることはもちろん、話題性のある情報をプレスリリースとして配信することで、配信先の目に留まりやすくなり、多くの掲載実績につながったと考えられます。

また、プレスリリースは HP でも公開し、それをきっかけに新規メディアからの取材にもつながりました。

2. ホームページによる情報発信

ホームページは、近年スマートフォンやタブレットの普及に伴って閲覧できる人が増加し、ますます有効な広報手段になってきています。また、こちら側から自由に情報発信ができることから、最新の情報を随時公開できるという特性を持ちます。

ホームページは、閲覧者に常に最新の情報を発信することと、閲覧者が知りたい情報へすぐにたどり着けるように、見やすいレイアウトや分かりやすい文章であることが重要です。

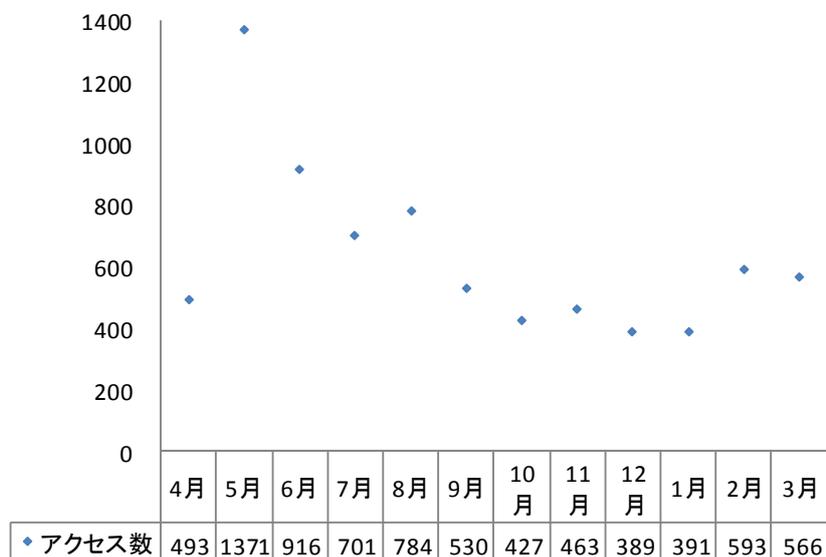
● ホームページアクセス数

今年度のホームページアクセス総数は、220,284 回でした（平成 26 年 4 月 28 日～平成 27 年 3 月 31 日）。4 月中は 3 日しかアクセス数を数えられなかったため、下記グラフのうち、4 月中のアクセス数は信頼できる値ではありません。

4 月の 27 日までのアクセス数を計上できなかった原因は、ホームページのサーバーを移転したことで、以前使用していたアクセスカウンターが使えなくなったことへの対応の遅れです。

今年度、アクセス数の解析には Google アナリティクスを用い、トップページのページビュー数を求めました。ページビュー数では、純粋にトップページが表示されるたびにカウントされます。よって同端末から 2 回訪問された場合、アクセス数は 2 回となります。

一日当たりの平均アクセス数(平成26年4月～平成27年3月)



ホームページのアクセス数は5月が群を抜いて多かったといえます。大きな要因は2つあると考えられます。1つはリフレッシュオープンの影響、そしてもう1つは5月10日に影響力の強いテレビ番組（フジテレビ「有吉くんの正直さんぽ」）で大きく取り上げられたことです。放送日である5月10日だけで9,501件のアクセスがあり、これは5月のアクセス総数（41,562件）のおよそ4分の1を占めます。その他にも5月はゴールデンウィークや、ホテル見night!などの情報を求めてのアクセスも多かったことと予想されます。その他の月では、6月は「ホテル見night!」、7,8月は夏休みの影響で増加したと考えられます。一方で秋～冬にかけて、アクセス数が伸びませんでした。今後はこの期間に、その他の広報活動に力を入れて公式HPへの誘致を行い、HP上では「みみより情報」の頻繁な更新などを行うことによりアクセス数を伸ばし、入園者数の獲得にもつなげていきたいです。

● ホームページ更新内容

本年度は106回の情報更新を行いました。また、より見やすいレイアウトにするため、「みみより情報」をタブ表示にしたり、各所にスクロールバーを導入したりしました。

H26年度 HP更新回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1-1 アイキャッチ画像	1	2	1	2	2					2		
1-2 みみより情報	2	1	1	4	3	3	2	3	3	2	1	4
1-3 最新情報	※更新履歴のこと。随時更新。											
1-4 生物園からのお知らせ	1	3		1	3	2	2	2		2	1	1
1-5 元洲江公園の開花情報	4											
2-1 利用案内	1	1	1			1						
3-1 生物園の飼育の基本方針												
3-2 プライバシーポリシー			1									
2-2 しせつ案内	1											
2-3 プログラム案内		3										
3-3 特設展示情報	1		1	1								
3-4 プログラム情報	3		2	2	3	3	2	3	4	2	1	1
3-5 プログラムカレンダー		2		1	2			1	2	1		1
SP 特設ページ	1	2	1	1	1						2	
2-4 生物園の生きもの	2			1								
2-5 飼育日記												
3-6 モンシロチョウ												
3-7 スズムシ												
3-8 セイヨウミツバチ												
2-6 Q&A												
3-9 みなさまから生物園への声											1	
3-10 昆虫編												
3-11 魚編												
3-12 甲殻類編												
2-7 解説員のひとりごと												
2-8 ニュースレターダウンロード	3			2	3	1	1	2	1	1	1	1
2-9 リンク		1	1									
2-10 プレスリリース	1	1					1	1			1	1



今後は生きものに関する旬な情報や、プログラムの実施報告など、生物園・元渚江公園の最新情報をより一層頻繁に発信していきたいと考えています。そのために、FacebookなどのSNSを活用する予定です。

また、近年急激にスマートフォンやタブレットの利用者が増えています。従来のページもこれらの端末で閲覧可能ですが、閲覧者にとってより利用しやすいように、今後スマートフォン専用サイトの作成・公開を検討したいと思います。

3. ポスター・チラシ等による情報発信

(1) ポスター

ポスターは、掲載する情報を搾り、効果的な場所に掲示することで、非常に大きな広報効果を得ることが出来ます。

今年度は、展示情報、プログラム情報、イベント情報などをポスターにして掲示しました。掲示場所は生物園建物壁面（2枚）、生物園入口・元渚江公園入口掲示板（各2枚）、竹ノ塚駅前（2枚）、足立区役所本庁舎1Fアトリウム（2枚）です。

竹ノ塚駅前には2枚のポスターを貼ることが出来ますが、そのうち1枚は生物園の基本情報が掲載されたものを年間通して掲示しているため、時期に応じて貼り替えるポスターは1枚のみです。

アトリウムのポスター貼り替えは、ほとんどを足立区の担当係へお願いしている為、下記実績表のアトリウム部分の掲示期間は目安となっています。他の施設のポスターを掲示される時などは、一時掲示を中断しています。また、アトリウムの掲示板デザインを、季節に応じて9回変更しました。

掲示場所	生物園入口・元瀬江公園入口		建物屋外壁面		竹ノ塚駅前看板	アトリウム	
	1	2	1	2		1	2
サイズ	80×80(cm)	80×80(cm)	B1	B1	53×53(cm)	B1	B1
4	上 リフレッシュオープン 中 マイタウンコンサート 下	よろしくね！キャンペーン	リフレッシュオープン	マイタウンコンサート	リフレッシュオープン	リフレッシュオープン マイタウンコンサート	よろしくね！キャンペーン
5	上 両生類展 中 下	ホテル見night!	両生類展	ホテル見night!	両生類展	両生類展	ホテル見night!
6	上 下	屋のホテル観賞会		屋のホテル観賞会			屋のホテル観賞会
7	上 カプトムシ・クワガタ展 中 下	夏休みキャンペーン	とぶ飛ぶ跳ぶ！生きもの展	カプトムシ・クワガタ展	とぶ飛ぶ跳ぶ！生きもの展	とぶ飛ぶ跳ぶ！生きもの展	夏休みキャンペーン
8	上 鳴く虫展 中 下			鳴く虫展			鳴く虫展
10	上 コッコソク展 中 下	10月のプログラム	コッコソク展	カマキリ展	コッコソク展	コッコソク展	10月のプログラム
11	上 下	11月のプログラム		ゴキブリ展			11月のプログラム
12	上 クリスマス展 中 下	12月のプログラム	クリスマス展	ゴキブリ展	クリスマス展	クリスマス展	12月のプログラム
1	上 お正月展 中 下	1月のプログラム	お正月展	奇々怪々な「虫」展	お正月展	お正月展	1月のプログラム
2	上 奇想天貝展 中 下	2月のプログラム	奇想天貝展	奇々怪々な「虫」展	奇想天貝展	奇想天貝展	2月のプログラム
3	上 下	3月のプログラム		奇々怪々な「虫」展			3月のプログラム



ポスターは大変有効的な広報手段の一つです。今年度は生物園周辺への掲示のみでしたが、生物園の認知度向上と新規来園者の獲得に生かすため、今後は園外の掲示場所を増やすことを検討していきたいと考えています。

● アトリウム掲示板のデザイン変更

区庁舎へ訪れた人々を飽きさせないように、アトリウムの掲示板のデザインを、年9回変更しました。デザインは季節に応じたものでありながら、また見た目にも華やかなものになりました。

H26年度 アトリウム掲示版デザイン変更

時期	背景種類		
4月上旬	さくら	10月上旬	秋の草原
4月下旬		10月下旬	
5月上旬	新緑のさくら	11月上旬	
5月下旬		11月下旬	
6月上旬	あじさい	12月上旬	クリスマス
6月下旬		12月下旬	
7月上旬	湿地の緑	1月上旬	冬景色
7月下旬		1月下旬	
8月上旬		2月上旬	
8月下旬		2月下旬	
9月上旬	花と空	3月上旬	さくら
9月下旬		3月下旬	

(2) ニュースレター

ニュースレターはイベント情報だけでなく、解説的要素も入れた情報を発信する広報ツールの1つです。掲載する内容は生きものへの興味・関心を引き出し、手に取った人がじっくり読みたくなるようなものになるよう心がけました。

今年度は毎月1回、原則5,500部印刷しました。12月号のみ、表記ミスがあったため途中で配布を中止し、4,500部再印刷したものを再配布しました。



配布先は生物園受付、園最寄りの小学校3校（全校児童へ配布）、区内外各施設や駅のラックです。

H26年度 ニュースレター配布先とその部数

配布先名	部数
生物園受付	757
湊江小学校	557
湊江第一小学校	700
保木間小学校	463
公園管理課 施設活用係（区内外施設ラック）	2,820
報道広報課 広報係（駅ラック）	185
保管用	18
合計	5,500

反省点は夏の繁忙期に部数が足りなくなってしまうこと、一方で冬期は多数余ってしまったことです。

今後は夏の発行部数を増やすこと、そして冬期は園外での配布部数を増やすことを検討したいと思います。

(3) チラシ

目玉となるイベントやプログラムを実施する際に、チラシを発行すると、大きな広報的効果を得られるだけでなく、そのイベントやプログラムにぜひ参加したいというお客様に非常に喜ばれます。

今年度は10種類のチラシを発行し、生物園の受付にて配布しました。内容は目玉となるプログラムの情報や、キャンペーン情報、募集型プログラムの告知です。発行部数は配布時の来園者に応じたため、冬期は少なくなっています。

H26年度 チラシ発行実績

発行月	掲載内容	発行部数
5	ホテル見night!	2,000
6	ホテルの昼間観賞会	500
"	昆虫標本教室	200
"	東京湾干潟ウォッチング	200
10	手羽先の骨格標本を作ろう!	100
11	冬のほっとキャンペーン	100
"	蜜蝋キャンドルを作ろう!	100
"	イカ墨で書き初め	100
12	ニューイヤーキャンペーン	100
1	こども獣医さんになろう	100



チラシを手にとったお客様の多くが興味を持って見てくれ、プログラムの参加にもつながったと考えています。

今年度は園の受付でのみの配布となりましたが、今後は区内外の他施設でも配布を行うことを考えています。そのために、ニュースレター・ポスターとの住み分けや、相乗効果についても十分に検討したいと思います。

(4) 中吊り広告

今年度からの初の試みとして、東武線車両内に中吊り広告計3回掲出しました。1回はB3サイズ全面を使って生物園をPRしたものの、残り2回は東武動物公園の広告に部分的に生物園の広告を掲載しました。

H26年度 東武線中吊り広告掲出実績

種類	掲出時期	内容	掲出区間
B3サイズ	1月下旬～2月上旬	移動動物園&ポニーの乗馬体験	スカイツリーライン
部分広告	5月下旬～6月	ホテル見night!	東武線全線
	1月上旬	奇々怪々な「蟲」展	

1月に掲出したB3サイズの中吊り広告は大きな反響があり、電話問い合わせが特に増加しました。問い合わせ内容は、利用方法(入園料や交通案内)に関するものが多かったことから、生物園のみの中吊り広告は、生物園の認知度の向上及び、新規来園者の獲得に非常に効果的であると考えられます。

また、生物園へアクセスしやすい地域に、まだまだ生物園を知らない方が多くいるということの裏付けにもなります。生物園の来園者数にはまだまだ増加の余地があると思われます。

(5) デジタルサイネージ

7月から、北千住駅前のデジタルサイネージにて、生物園のプログラム・展示情報を放映していただけることとなりました。利用者の多い北千住駅前での放映なので、老若男女問わず多くの方々の目に留まると考えられます。

放映の流れとしては、足立区報道広報課へ掲載したい情報と写真を送り、それをもとに報道広報課が静止面を作成、出来上がったものを園と報道広報課とで校正を行った後に、放映されることとなっています。

H26年度 北千住駅デジタルサイネージ放映実績

放映		内容
開始	終了	
7月4日	7月25日	里山の生きもの調査隊
7月25日	8月31日	カブトムシ・クワガタ展
9月6日	10月3日	ニシキヘビと一緒に記念撮影
10月11日	10月31日	コツコツ骨展
11月1日	12月23日	冬のホタル観賞in光の祭典
12月24日	1月31日	ガラルファ
2月1日	2月15日	移動動物園+ポニーの乗馬体験
2月16日	3月29日	奇想天貝



今年度の反省点は、報道広報課担当へ、情報・写真の提供が遅れ、放映されていない期間がしばしばあったことと、2月の移動動物園など、目玉となるイベントの放映期間が短くなってしまったことです。

今後は放映予定を早々に決め、情報提供の遅れをなくすことで、より大きな広報効果が得られるようにしたいと考えています。

第二章 生物飼育業務

I 生物飼育業務

1. 平成 26 年度の飼育状況

(1) 昆虫類

今年度、足立区生物園の昆虫類の飼育は、チョウ類、水生昆虫類、陸生昆虫類の3つの区分で管理を行いました。また、チョウ類の管理は分類学上ではチョウ目のみとなるため、科（および亜科）による区分で飼育管理を行いました。なお、分類学上は昆虫ではないが、餌用生体として飼育管理した種（カタツムリなど）については、餌として使用する区分ごとに飼育管理を行いました。

各区分の年間飼育種数と頭数はチョウ類 53 種 9,813 頭、水生昆虫類 28 種 312 匹（ホタル類および水生巻貝類をのぞく）、バッタ類 35 種 497 匹（エサ用コオロギ類 2 種をのぞく）、陸生甲虫類 44 種 587 匹（エサ用ミルワーム類 2 種を除く）でした。



(2) 両生爬虫類

今年度、足立区生物園の両生爬虫類の飼育では、年間 75 種 432 匹（両生類：29 種 305 匹、爬虫類：46 種 127 匹）の飼育管理を行いました。



(3) 水族

水族の飼育管理を行う種は分類学上において多岐に渡るため、綱レベルでの区分とし飼育管理を行いました。水族の年間飼育種数は 213 種 3,255 匹（うち魚類は軟骨魚類綱：3 種 3 匹、条鰭綱：89 種 2,427 匹）でした。



平成26年度 水族飼育種数リスト

綱	目数	種数	頭数
1 普通海綿綱	2	2	6
2 花虫綱	3	7	31
3 多板綱	1	3	16
4 腹足綱	11	44	256
5 二枚貝綱	2	4	23
6 頭足綱	1	1	1
7 多毛綱	4	4	15
8 カブトガニ綱	1	1	4
9 軟甲綱	1	25	191
10 ウミユリ綱	1	3	8
11 ヒトデ綱	3	7	143
12 クモヒトデ綱	1	5	63
13 ウニ綱	2	5	35
14 ナマコ綱	3	9	32
15 ホヤ綱	1	1	1
16 軟骨魚類綱	3	3	3
17 条鰭綱	13	89	2,427
合計	53	213	3,255

(4) 鳥類哺乳類

今年度、足立区生物園の鳥類哺乳類の飼育では、年間 29 種 215 匹（鳥類：9 種 35 頭、哺乳類：20 種 180 頭）の飼育管理を行いました。

2. 各飼育区分の飼育種数および頭数のリスト

(1) チョウ類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考		
アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	484	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ベニモンアゲハ	122	有	大温室	屋外採集個体を含む		
	キアゲハ	120	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	シロオビアゲハ	441	有	大温室	屋外採集個体を含む		
	カラスアゲハ	75	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ナミアゲハ	1,220	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ナガサキアゲハ	1,110	有	大温室 昆虫ドーム			
	クロアゲハ	1,067	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	オナガアゲハ	10	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	モンキアゲハ	109	有	大温室 昆虫ドーム			
	ミヤマカラスアゲハ	29	有	大温室	屋外採集個体を含む		
	アオスジアゲハ	64	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	タテハチョウ科	マダラチョウ 亜科	リュウキュウアサギマダラ	378	有	大温室	屋外採集個体を含む
			アサギマダラ	88	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む
オオゴマダラ			540	有	大温室	屋外採集個体を含む	
スジグロカバマダラ			92	有	大温室	屋外採集個体を含む	
ツマムラサギマダラ			214	有	大温室		
カバタテハ			589	有	大温室		
タテハチョウ 亜科		リュウキュウミスジ	404	有	大温室		
		ツマグロヒョウモン	258	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む	
		ミドリヒョウモン	2	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		クモガタヒョウモン	1	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		イシガケチョウ	261	有	大温室	屋外採集個体を含む	
		アカタテハ	47	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む	
		ヒメアカタテハ	2	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		ルリタテハ	2	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		エルタテハ	1	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		ゴミスジ	8	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		クジャクチョウ	3	有	大温室	屋外採集個体のみ	
		オオムラサキ	80	有	昆虫ドーム	屋外採集個体を含む	
		ゴマダラチョウ	7	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む	
		アオタテハモドキ	199	有	大温室		
		コムラサキ	2	有	昆虫ドーム		
		ウスイロコマチョウ	40	有	大温室		
		キタテハ	2	有	昆虫ドーム	屋外採集個体を含む	
		ジャノメチョウ 亜科	ヒメウラナミジャノメ	5	有	昆虫ドーム	
コジャノメ			8	有	昆虫ドーム		
シロチョウ科		クロテンシロチョウ	781	有	大温室		
		ツマベニチョウ	121	有	大温室	屋外採集個体を含む	
	モンシロチョウ	139	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	スジグロシロチョウ	63	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	モンキチョウ	1	有	大温室	屋外採集個体のみ		
	キチョウ	51	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ヤマトスジグロシロチョウ	22	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
シジミチョウ科	ヤマトシジミ	67	有	大温室 昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ベニシジミ	132	有	昆虫ドーム	屋外採集個体を含む		
	ムラサキシジミ	15	有	大温室			
	ウラギンシジミ	9	有	大温室	屋外採集個体を含む		
	ツバメシジミ	3	有	大温室	屋外採集個体のみ		
	ルリシジミ	3	有	大温室	屋外採集個体のみ		
	ウラナミシジミ	3	有	昆虫ドーム			
ツシマウラボシシジミ	318	有	大温室				
セセリチョウ科	チャハネセセリ	1	有	大温室			
総種数	53						
総個体数	9,813						

(2) 水生昆虫類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考	
半翅目	タガメ	58	有	常設展 虫の親子関係展 飛ぶ展 ギャラクシティ展示		
	コオイムシ	46	有	虫の親子関係展		
	タイコウチ	44	有	常設展		
	ミズカマキリ	5		水辺の生きもの展	採集	
	マツモムシ	1				
	ミズムシ	5				
甲虫目	ゲンジボタル	幼虫	30,307	有	常設展	平成26年度孵化幼虫数
		成虫	161	有	ホタル見night!	
	ヘイケボタル	幼虫	11,708	有	常設展	平成26年度夏孵化幼虫数
			1,378	有	常設展	平成26年度冬孵化幼虫数
		成虫	144	有	常設展 ホタルの屋間観賞会	平成26年度夏羽化成虫数
			94	有	ホタルの屋間観賞会 冬のホタル観賞会	平成26年度冬羽化成虫数
	ミズスマシ	1				
	オオミズスマシ	25	有	奇々怪々な蟲展		
	クロゲンゴロウ	5				
	ゲンゴロウ	18	有	常設展 飛ぶ展 ギャラクシティ展示		
	ヒメフチドリゲンゴロウ	1				
	ヒメゲンゴロウ	3				
	コガタノゲンゴロウ	2				
	マルガダゲンゴロウ	4				
	ハイイロゲンゴロウ	1				
	コガムシ	6				
ガムシ	2					
マルガムシ	5					
トンボ目	アジアイトンボ	幼虫	10			
	コヤマトンボ	幼虫	2			
	コオニヤンマ	幼虫	2			
	ギンヤンマ	幼虫	6	有	ギャラクシティ展示	ギャラクシティにて展示
	クロスジギンヤンマ	幼虫	15			
	オオギンヤンマ	幼虫	1			
	リュウキュウギンヤンマ	幼虫	3			
	シオカラトンボ	幼虫	33			
	ヘビトンボ目	ヘビトンボ	幼虫	8	有	奇々怪々な蟲展
吸腔目	カワニナ科	カワニナ	1,000	有	ホタル見night!	水生ホタル類幼虫の餌として
原始紐舌目	タニシ科	タニシ	100	有	ホタル見night!	水生ホタル類幼虫の餌として
		モノアラガイ	100			水生ホタル類幼虫の餌として
有肺目	サカマキガイ科	ヒメモノアラガイ	100			水生ホタル類幼虫の餌として
		サカマキガイ	100			水生ホタル類幼虫の餌として
総種数	32					
総個体数	45,504					

(3) 陸生昆虫類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
トビムシ目	トビムシの仲間	1,000	有	とぶ! 展	
ゴキブリ目	ウルシゴキブリ	150	有	ゴキブリ展	
	クロゴキブリ	100	有	ゴキブリ展	
	コウモンゴキブリ	200	有	ゴキブリ展	
	トビイロゴキブリ	1			
	ヤエヤママダラゴキブリ	20	有	石垣島の昆虫たち展 ゴキブリ展	
	コマダラゴキブリ	3			
	ホタルゴキブリ	20			
	チャバネゴキブリ	200			
	キスジワモンゴキブリ	30	有	ゴキブリ展	
	レッドローチ	100			板橋区より受入れ
	グリーンバナナゴキブリ	20	有	ゴキブリ展	
	Lucihormetica verrucosa	7			
	ヨロイモグラゴキブリ	2	有	ゴキブリ展	
	オガサウラゴキブリ	200	有	ゴキブリ展	
	ヤエヤマオオゴキブリ	10	有	ゴキブリ展	
	サツマゴキブリ	20	有	ゴキブリ展	
	マルゴキブリ	50			
	ヒメマルゴキブリ	40	有	ゴキブリ展	
	マダガスカルゴキブリ	60	有	生きものタッチ お正月展	
	Gromphadorhina oblongonata				
	マダガスカルゴキブリ	30	有	生きものタッチ ゴキブリ展	
	Aeluropoda insignis				
	マダガスカルゴキブリ	50	有	生きものタッチ クリスマス展	
	Elliptorhina javanica				
	マダガスカルゴキブリ	12			
	Princisia vanwerebecki				
タイワンクチゴキブリ	2				
メンガタゴキブリの一種	40	有	ゴキブリ展		
アルゼンチンモリゴキブリ	80				
シロアリ目	ヤマトシロアリ	50	有	親子関係展	
カマキリ目	オオカマキリ	15	有	足立の生きもの観察室 カマキリ展	
	チョウセンカマキリ	2	有	カマキリ展	
	ウスバカマキリ	6	有	カマキリ展	
	ハラビロカマキリ	10	有	足立の生きもの観察室 カマキリ展	
	コカマキリ	4	有	カマキリ展	
	スジイリコカマキリ	2	有	カマキリ展	
	ヒナカマキリ	2	有	カマキリ展	
	ヒメカマキリ	1	有	カマキリ展	
	ハナカマキリ	2	有	カマキリ展	
	トガリメジシカマキリ	4	有	奇々怪々な蟲展	
	ニセハナマオウカマキリ	1	有	カマキリ展	
ヒシムネカレハカマキリ	4	有	カマキリ展 奇々怪々な蟲展		
ハサミムシ目	ヒゲジロハサミムシ	1	有	親子関係展	
	ハマバハサミムシ	11	有	親子関係展	
ナナフシ目	オキナワナナフシ	100	有	大温室前室 石垣島の昆虫たち展	
	トゲナナフシ	10			
	タイワンピンナナフシ	30	有	石垣島の昆虫たち展	
	コブナナフシ	50	有	奇々怪々な蟲展	
	ツダナナフシ	20	有	石垣島の昆虫たち展 奇々怪々な蟲展	
ガロアムシ目	ガロアムシ	4			
バッタ目	ダイトウクダマキモドキ	40	有	石垣島の昆虫たち展 鳴く虫展	
	エゾツユムシ	1			
	ヤエヤマヘリグロツユムシ	4			
	コバネコロギス	1			
	ヤブキリ	15	有	鳴く虫展 とぶ! 展	
	キリギリス	15	有	鳴く虫展	
	クビキリギス	2			
	ヒメギス	1	有	鳴く虫展	
	ハタケノウマオイ	1	有	鳴く虫展	
	オナガササキリ	5	有	鳴く虫展	
	クツウムシ	10	有	鳴く虫展	
	タイワンクツウムシ	40	有	石垣島の昆虫たち展 鳴く虫展	
	カンタン	5	有	鳴く虫展	
	ヒロバネカンタン	5	有	昆虫ドーム	
	マツムシ	10	有	鳴く虫展	
	コバネマツムシ	2			
	スズムシ	30	有	鳴く虫展	
	マダラコオロギ	3			
	ヤエヤマクチキコオロギ	50	有	石垣島の生きものたち展	

バッタ目	フタホシコオロギ	100	有	鳴く虫展	
	ヨーロッパイエコオロギ	1,500			毎週購入
	ミツカドコオロギ	10	有	鳴く虫展	
	エンマコオロギ	100	有	鳴く虫展 昆虫ドーム	
	ツツレサセコオロギ	5			
	カネタタキ	5	有	鳴く虫展	
	シバズ	5	有	鳴く虫展	
	マダラスズ	5	有	鳴く虫展	
	ヤエヤママツムシモドキ	1			
	ケラ	1			
	ツチイナゴ	5	有	鳴く虫展	
	タイワンコバネイナゴ	1			
	イナゴモドキ	5	有	鳴く虫展	
	ショウリヨウバッタ	4	有	とぶ!展	
	トノサマバッタ	2	有	とぶ!展	
ヒロバネヒナバッタ	5	有	鳴く虫展		
イシガキモリバッタ	3				
イリオモテモリバッタ	100	有	大温室前室		
シロモンオオサンガメ	50	有	奇々怪々な蟲展	幼虫20、成虫30	
アシトメミズムシ	20	有	奇々怪々な蟲展		
カメムシ目	デンリュウオオサムシ	2			
	マイマイカブリ	1			
	ハンミョウ	10			
	カワラハンミョウ	1			
	オオシマドボタル	70	有	石垣島の昆虫たち展 奇々怪々な蟲展	
	オオセンチコガネ	10	有	親子関係展	
	カブトムシ	120	有	カブクワ展	板橋区より受入れ(13匹)
	ツノボソカブト	1	有	カブクワ展	
	ツヤカブト	1	有	カブクワ展	
	コガトムシ	1			
	アドラスオオカブト	3	有	カブクワ展	
	アクティオンゾウカブト	2			
	グラントシロカブト	4	有	カブクワ展	
	ヘラクレスヘラクレス	30	有	カブクワ展	幼虫蛹29、成虫1
	ミヤマクワガタ	2			
	コクワガタ	2			成虫
	スジクワガタ	1			成虫
	オオクワガタ	37	有	カブクワ展	成虫
	アンタエウスオオクワガタ	2			
	チビクワガタ	100	有	親子関係展、カブクワ展	
	サキシマヒラタクワガタ	14	有	石垣島の昆虫たち展	幼虫4、成虫10
	バラウンオオヒラタ	3	有	カブクワ展	
	ニジイロクワガタ	7	有	生きものタッチ カブクワ展	幼虫2成虫5
	バブアキンイロクワガタ	2	有		
	ムナコブクワガタ	4			
	セアカフタマタクワガタ	4	有	カブクワ展	幼虫2成虫2
	マンディブラリスフタマタクワガタ	3	有	カブクワ展	
	ダビソフタマタクワガタ	4			
	ノコギリクワガタ	12	有	カブクワ展	成虫
	ハチジョウノコギリクワガタ	3			幼虫
	ギラファノコギリクワガタ	33	有	カブクワ展	幼虫、蛹
	ゼブラノコギリクワガタ	1			
	モーニッケノコギリクワガタ	2			
	ウォレスノコギリクワガタ	2			
	メリーメンガタクワガタ	2	有	カブクワ展	
	メタリフェルホソアカクワガタ	2	有	カブクワ展	
	シロテンハナムグリ	15	有	とぶ!展	成虫
	アオドウガネ	10	有	足立の生きもの観察室	
	オオヒラタシテムシ	10	有	足立の生きもの観察室	
	ヒョウタンゴミムシ	1			
	キマワリ	15			幼虫
	チャイロコメノゴミムシダマシ (ミルワーム)	1,000			
	ツヤケシオオゴミムシダマシ (ジャイアントミルワーム)	44			
	オオゾウムシ	6			成虫
	クロカタゾウムシ	31	有	大温室前室 生きものタッチ とぶ!展 骨展 お正月展 石垣島の昆虫たち展	
	コメツキ類の幼虫(石垣島産)	1			

ハエ目	ショウジョウバエ	1,000		
	クロヤマアリ	20		
	クロオオアリ	13	有	足立の生きもの観察室 親子関係展
	ムネアカオオアリ	2		
	ウメマツオオアリ	20		
	イエヒメアリ	100		
ハチ目	アウデコヌカアリ	60		
	オオシワアリ	30		
	キアシナガバチ	15	有	親子関係展 とぶ! 展
	セグロアシナガバチ	1		
	コアシナガバチ	5		
	セイヨウミツバチ	1,000	有	
サソリ目	ヤエヤマサソリ	8	有	石垣島の昆虫たち展
	ダイオウサソリ	17	有	奇々怪々な蟲展
サソリモドキ目	アマミサソリモドキ	1		
	タイワンサソリモドキ	1	有	石垣島の昆虫たち展 奇々怪々な蟲展
フトマルヤスデ目	ヤエヤママルヤスデ	18	有	奇々怪々な蟲展
ゲジ目	オオゲジ	2	有	奇々怪々な蟲展
オオムカデ目	トビズムカデ	1	有	親子関係展
クモ目	メキシカン・ピンク(タランチュラ)	2		
	アカブルコ・レッドニー(タランチュラ)	2	有	クリスマス展
	カーリーヘア(タランチュラ)	2	有	奇々怪々な蟲展
ウデムシ目	ウデムシ	1	有	奇々怪々な蟲展
ワラジムシ目	オカダンゴムシ	20	有	生きものタッチ
	ハマダンゴムシ	20		
	ワラジムシ	100		
ヨコエビ目	ヒメハマトビムシ	200	有	とぶ! 展
有肺目	カタツムリの仲間	200	有	奇想天貝
総種数		160		
総個体数		9,435		

(4) 両生爬虫類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考	
無尾目	モリアオガエル	4			板橋区より受入(3匹)	
	トウキョウダルマガエル	6	有	両棲類展 とぶ！展		
	アマガエル	20	有	両棲類展 足立の自然		
	ツチガエル	6	有	両生類展		
	ヒキガエル	2	有	ふれあい 常設展		
	アジアウキガエル	100	有	常設展		
	アフリカツメガエル	62	有	常設展		
	マルメタビオカガエル	2	有	常設展		
	イエアメガエル	1	有	常設展		
	マダラヤドクガエル	10	有	常設展		
	キオビヤドクガエル	1	有	常設展		
	クランウェルガエル	1				
	ベルツノガエル	1	有	常設展		
	ミツツノコノハガエル	2				
	リュウキュウカジガエル	3				
	サキシマヌマガエル	6				
	カジガエル	7				
	ニホンアカガエル	2				
	ツシマアカガエル	10				
	ヤマアカガエル	7	有	とぶ！展		
有尾目	アカハライモリ	20	有	両棲類展 ふれあい	板橋区より受入(2匹)	
	メキシコサラマンダー	5	有	Xmas展		
		3	有	常設展		
	シリケンイモリ	1				
	オオサンショウウオ	1				
	ハコネサンショウウオ	4				
	トウキョウサンショウウオ	3				
	トウホクサンショウウオ	8				
	クロサンショウウオ	6				
	タイガーサラマンダー	1	有	常設展		
	カメ目	キバラガメ	1			
クサガメ		2	有	ふれあい		
		9				
ワニガメ		1				
スッポンモドキ		1	有	常設展		
ヤエヤマインシガメ		2	有	お正月展		
チリメンナガクビガメ		1	有	常設展		
マタマタ		1	有	常設展		
カロリナハコガメ		2	有	常設展		
インドホシガメ		5	有	常設展		
ヒョウモンリクガメ		1	有	常設展		
ケヅメリクガメ		3	有	常設展		
ロシアリクガメ		1				
ウンキョウ		2				
ニホンインシガメ		2			板橋区より受入(2匹)	
ニューギニアカフトガメ		1				
ニシキマゲクビガメ		1	有	常設展		
フトアゴヒゲトカゲ		1	有	常設展		
トッケイヤモリ		1	有	常設展		
有鱗目	エボシカメレオン	1				
	ヒョウモントカゲモドキ	7	有	常設展		
	オオアオジトカゲ	1	有	常設展		
	インドシナウォータードラゴン	2	有	常設展		
	ミナミヤモリ	1				
	ホオグロヤモリ	3				
	イシガキトカゲ	2				
	ニホンヤモリ	22	有	常設展		
	キノボリトカゲ	7				
	ニホンカナヘビ	13				
	ヒガシニホントカゲ	1				
	オカダトカゲ	1				
	へび亜目	ビルマニシキヘビ	2	有	常設展	
		ミドリニシキヘビ	1	有	常設展	
		ボアコンストリクター	3	有	常設展	
		ヤマカガシ	1			
		ニホンナムシ	1			
ヒバカリ		2				
シマヘビ		5	有	足立の自然 骨展		
ジャングルカーベットパイソン		1	有	ふれあい		
ボールパイソン		2	有	ふれあい		
ペーレンニシキヘビ		2	有	常設展		
カリフォルニアキングスネーク	1	有	お正月展			
カンムリヘビ	1	有	常設展			

有鱗目	へび亜目	ミルクヘビ	1	有	X'mas展	
		ブラーミニメクラヘビ	1			
		アオダイショウ	3	有	プログラム 足立の自然	
		ナンダ	1			
総種数		75				
総個体数		432				

(5) 水族の年間飼育種数および頭数のリスト

● 普通海綿綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
磯海綿目	クロイソカイメン	3	有	タッチプール	
単骨海綿目	ワトトリカイメン	3	有	タッチプール	
総種数		2			
総個体数		6			

● 花虫綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
イシサンゴ目	ウスコモンサンゴ	1	有	常設展	
	コエダナガレハナサンゴ	1	有	常設展	
	ナガレハナサンゴ	3	有	常設展	
イソギンチャク目	ウメボシイソギンチャク	15	有	タッチプール	
	ミドリイソギンチャク	5	有	タッチプール	
	ベニヒモイソギンチャク	3	有	タッチプール	
ホネナシサンゴ目	ディスクコーラル	3	有	常設展	
総種数		7			
総個体数		31			

● 多板綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
クサズリガイ目	ウスヒザラガイ	3	有	タッチプール	
	ケムシヒザラガイ	8	有	タッチプール	
	ヒメケハダヒザラガイ	5	有	タッチプール	
総種数		3			
総個体数		16			

● 腹足綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
裸鰓目	アオウミウシ	5	有	タッチプール	
	イロミノウミウシ	1	有	タッチプール	
	ウスイロウミウシ	2	有	タッチプール	
	オトメウミウシ	2	有	タッチプール	
	クモガタウミウシ	1	有	タッチプール	
	クロシタナシウミウシ	7	有	タッチプール	
	コモンウミウシ	1	有	タッチプール	
	サメジマオトメウミウシ	1	有	タッチプール	
	シラヒメウミウシ	1	有	タッチプール	
	シロウミウシ	8	有	タッチプール	
	ネズミウミウシ	1	有	タッチプール	
	ハクセンミノウミウシ	1	有	タッチプール	
	マンリョウウミウシ	1	有	タッチプール	
	ミノウミウシ	2	有	タッチプール	
	ミヤコウミウシ	3	有	タッチプール	
	メリベウミウシ	2	有	タッチプール	
囊舌目	アズキウミウシ	2	有	タッチプール	
	オトメミドリガイ	3	有	タッチプール	
	ヒラミミドリガイ	4	有	タッチプール	
アマオブネガイ目	アマオブネガイ	3	有	タッチプール	
アメフラシ目	アマクサアメフラシ	6	有	タッチプール	
	アメフラシ	1	有	奇想天馬展	
	クロヘリアメフラシ	4	有	タッチプール	

吸腔目	アラムシロ	40	有	奇想天貝展	
	アラレタマキビ	15	有	奇想天貝展	
	イボニシ	4	有	タッチプール	
	キンシバイ	1	有	タッチプール	
	マガキガイ	3	有	タッチプール 奇想天貝展	
	レイシガイ	20	有	タッチプール	
古腹足目	インダタミ	15	有	タッチプール	
	エビスガイ	7	有	タッチプール	
	オトメガサ	3	有	タッチプール	
	クボガイ	7	有	タッチプール	
	クマノコガイ	5	有	タッチプール	
	クロアビ	2	有	奇想天貝展	
	サザエ	3	有	奇想天貝展	
	スガイ	15	有	タッチプール	
	スカシガイ	8	有	タッチプール	
	パテイラ	10	有	タッチプール	
背楯目	ウミフクロウ	6	有	タッチプール	
カサガイ目	クサイロアオガイ	5	有	タッチプール	
異鰓目	ハダカメガイ	20	有	奇想天貝展	
柄眼目	ナミギセル	1	有	奇想天貝展	
ブドウガイ目	ミスガイ	4	有	タッチプール	
総種数	44				
総個体数	256				

● 二枚貝綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
マルスダレガイ目	アサリ	10	有	奇想天貝展	
	チョウセンハマグリ	3	有	奇想天貝展	
	ホンビノスガイ	5	有	奇想天貝展	
イガイ目	ムラサキイガイ	5	有	奇想天貝展	
総種数	4				
総個体数	23				

● 頭足綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
タコ目	ヒョウモンダコ	1			展示予定種
総種数	1				
総個体数	1				

● 多毛綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
ケヤリムシ目	ケヤリムシ	1	有	タッチプール	
ササイバゴガイ目	サンハチウロコムシ	1	有	タッチプール	
スピオ目	ミズヒキゴカイ	10	有	タッチプール	
フサゴアイ目	クマノアシツキ	3	有	タッチプール	
総種数	4				
総個体数	15				

● カブトガニ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
カブトガニ目	アメリカカブトガニ	4	有	常設展	
総種数	1				
総個体数	4				

● 軟甲綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
十脚目	アカマンジュウガニ	1	有	タッチプール	
	オニヌマエビ属	2	有	常設展	別名: アジアロックシュリンプ
	アメリカザリガニ	20	有	出張生物園 ふれあい展	
	イシダタミヤドカリ	2	有	タッチプール	
	イソクズガニ	6	有	タッチプール	
	イソヨコバサミ	12	有	タッチプール	
	イボトゲガニ	5	有	タッチプール	
	オウギガニ	5	有	タッチプール	
	クロベンケイガニ	16	有	常設展 出張生物園	
	ケアシホンヤドカリ	3	有	タッチプール	
	ケブカアワツツガニ	2	有	タッチプール	
	ケブカヒメヨコバサミ	3	有	タッチプール	
	ショウジンガニ	1	有	タッチプール	
	スベスベマンジュウガニ	1	有	タッチプール	
	ソメンヤドカリ	5	有	タッチプール	
	ヒツメガニ	1	有	タッチプール	
	ヒライソガニ	9	有	タッチプール	
	ベニホンヤドカリ	2	有	タッチプール	
	ヘリトリマンジュウガニ	1	有	タッチプール	
	ホシゾラホンヤドカリ	2	有	タッチプール	
	ホンヤドカリ	8	有	タッチプール	
	ヤマトホンヤドカリ	3	有	タッチプール	
	カワリヌマエビ属	60	有	常設展	品種名: レッドビーシュリンプ
等脚目	イソハラムシ	1	有	タッチプール	
端脚目	トゲフレカラ	20			
総種数	25				
総個体数	191				

● ウミユリ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
ウミシダ目	オオウミシダ	1	有	タッチプール	
	トゲバナウミシダ	3	有	タッチプール	
	ニッポンウミシダ	4	有	タッチプール	
総種数	3				
総個体数	8				

● ヒトデ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
アカヒトデ目	アカヒトデ	30	有	常設展 タッチプール	
	イトマキヒトデ	100	有	常設展 タッチプール	
	カワテブクロ	1	有	常設展	
	チビイトマキヒトデ	3	有	タッチプール	
ヒメヒトデ目	オオシマヒメヒトデ	1	有	タッチプール	
	ヒメヒトデ	3	有	タッチプール	
マヒトデ目	ヤツデヒトデ	5	有	タッチプール	
総種数	7				
総個体数	143				

● クモヒトデ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
クモヒトデ目	アカクモヒトデ	6	有	タッチプール	
	クロスジトゲクモヒトデ	1	有	タッチプール	
	ナガトゲクモヒトデ	8	有	タッチプール	
	ニシキクモヒトデ	8	有	タッチプール	
	ニホンクモヒトデ	40	有	常設展 タッチプール	
総種数	5				
総個体数	63				

● ウニ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
拱歯目	アカウニ	1	有	タッチプール	
	サンショウウニ	8	有	タッチプール	
	バファンウニ	5	有	タッチプール	
	ムラサキウニ	20	有	タッチプール	
ブツク目	オオブツク	1	有	タッチプール	
総種数	5				
総個体数	35				

● ナマコ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
マナマコ目 (楯手目)	アカオニナマコ	1	有	タッチプール	
	イソナマコ	3	有	タッチプール	
	テツイロナマコ	5	有	タッチプール	
	トラフナマコ	2	有	タッチプール	
	ニセクロナマコ	10	有	常設展・タッチプール	
	マナマコ	10	有	タッチプール	
キンコ目(樹手目)	イシコ	2	有	タッチプール	
イカリナマコ目 (無足目)	オオイカリナマコ	1	有	常設展	
	ムラサキクルマナマコ	2	有	タッチプール	
総種数	9				
総個体数	36				

● ホヤ綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
マメボヤ目	マンジュウボヤ	1	有	タッチプール	
総種数	1				
総個体数	1				

● 軟骨魚類綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
メジロザメ目	ドチザメ	1	有	常設展	
ネコザメ目	ネコザメ	1	有	常設展	
トビエイ目	ボタモトリゴン・モトロ	1	有	常設展	流通名:モトロ
総種数	3				
総個体数	3				

● 条鰭綱

分類	種名	個体数	展示歴	展示名	備考
スズキ目	アゴハゼ	5	有	タッチプール	
	イシガキダイ	1	有	常設展	
	イラ	1	有	常設展	
	ウキゴリ	1	有	常設展	
	オヤニラミ	1			板橋区より受入れ
	オヤビツチャ	2	有	常設展	
	カクレクマノミ	5	有	常設展	
	カワアナゴ	1	有	常設展	
	キイロハギ	1	有	常設展	
	ギンユゴイ	5	有	常設展	
	クマノミ	3	有	常設展	
	クロメジナ	1	有	常設展	
	シュードトロフェウス・ロンバロイ	9	有	常設展	流通名:ゴールデンゼブラシクリッド
	Pseudotropheus sp.	9	有	常設展	流通名:レッドゼブラシクリッド
	ラビドクレミス・カエルレウス	12	有	常設展	流通名:スノーホワイトシクリッド
	タカノハダイ	1	有	常設展	
	タテジマキンチャクダイ	1	有	常設展	板橋区より受入れ
	チチフ	7	有	常設展	
	テッポウウオ属	10	有	常設展	流通名:テッポウウオ
	トサカギンボ	10	有	常設展	
	ネオランブローグス・ブリチャージ	17	有	常設展	板橋区より受入れ
	ネットアイズメダイ	1	有	常設展	
	パールグラミー	2	有	常設展	
	ハタタテダイ	1	有	常設展	
	ハタタテハゼ	1	有	常設展	
	ヒフキアイゴ	3	有	常設展	
	マンジュウイシモチ	6			
	ミズジリュウキュウスズメダイ	13	有	常設展	
	ミナミトビハゼ	6	有	常設展	
	ヨシノボリ属	4	有	常設展	
	リーフフィッシュ	5	有	常設展	
	ルリスズメダイ	100	有	常設展	
	シマスズメダイ	1	有	常設展	
アロワナ目	アジアアロワナ	1	有	常設展	
	アジアアロワナ	1			流通名:グリーンアロワナ
	シルバーアロワナ	3	有	常設展	
	ハタフライフィッシュ	4	有	常設展	
ウナギ目	ビラルクー	3	有	常設展	
	ウナギ	3	有	出張生物園	
	コケウツボ	1	有	常設展	
	チンアナゴ	3	有	常設展	
	トラウツボ	1	有	常設展	
	ニンキアナゴ	3	有	常設展	
	ハワイウツボ	1	有	常設展	

コイ目	オйкаワ	1	有	常設展	板橋区より受入れ
	Tor属	3			流通名:アロワナカーブ
	ガラ・ルファ	53	有	ふれあい展	
	キンギョ	1,200	有	常設展	
	キンブナ	1			
	キンブナ	5	有	常設展	
				飛ぶ展	
	クーリーローチ	1	有	骨展	
				X'mas展	
	コイ	1	有	お正月展	
				出張生物園	
	コイ	3			板橋区より受入れ
					流通名:ヒレナガゴイ
	サイアミーズ・フライングフォックス	1			
	ドジョウ科	4	有	常設展	
	ゼブラフィッシュ	1	有	常設展	流通名:ゼブラダニオ・ロングフィン
	ソウギョ	1	有		
タイリクバラタナゴ	15	有	常設展		
ドジョウ	11	有	常設展		
モツゴ	6	有	常設展		
			出張生物園		
トゲウオ目	ラスボラ・ヘテロモルファ	5	有	常設展	
	オオウミウマ	2	有	常設展	
カラシン目	カージナルテトラ	4	有	常設展	
				X'mas展	
	ダイヤモンドテトラ	14			板橋区より受入れ
	ネオンテトラ	6	有	常設展	流通名:ダイヤモンドネオンテトラ
				X'mas展	
	ペンギンテトラ	2	有	常設展	
			常設展		
	マーブルハチェット	8	有	常設展	
			飛ぶ展		
カダヤシ目	グッピー	100			板橋区より受入れ
	セイルフィン・モーリー	50	有	常設展	流通名:ゴールデンモーリー
		7	有	常設展	流通名:バルーンモーリー
		30	有	常設展	流通名:ブラックモーリー
	サザンブラティフィッシュ	30	有	常設展	流通名:サンセットタキシードブラティ
		100	有	常設展	流通名:フルータキシードブラティ
		150	有	常設展	流通名:ミッキーマウスブラティ
	コクチモーリー	20	有	常設展	流通名:シルバーライヤーモーリー
	200	有	常設展	流通名:ブラックゴールデンライヤーモーリー	
	50	有	常設展	流通名:ブラッドオレンジライヤーモーリー	
ダツ目	メダカ属	40	有	常設展	板橋区より受入れ
					流通名:クロメダカ
ナマズ目	コリドラス・ジュリー	1	有	常設展	
	コリドラスステルバイ	2	有	常設展	
	サカサナマズ	3	有	常設展	
	タイガーシヨベルノーズキャットフィッシュ	2	有	常設展	
				常設展	
	トランスルーセントグラスキャットフィッシュ	10	有	骨展	
			X'mas展		
			お正月展		
	ナマズ	1	有	常設展	
	リネロリカリア・ランケオラータ	2	有	常設展	流通名:リネロリカリア・レッド
ガー目	スポットテッドガー	1	有	常設展	
カサゴ目	ハオコゼ	3			
フグ目	ミドリフグ	1			
タウナギ目	ファイヤースパイニーイール	2	有	常設展	流通名:レッドスパイニーイール
総種数	89				
総個体数	2,427				

(5) 鳥類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	備考	
鳥類	カモ目	アイガモ	1	有	里山のいきもの
		コクチョウ	1	有	オージードーム
	オウム目	オオバタン	1	有	出張生物園
		ゴシキセイガイインコ	1	有	オージードーム
		オカメインコ	19	有	オージードーム
		ワカナインコ	1	有	オージードーム
		アキクサインク	2	有	オージードーム
	フクロウ目	セキセイインコ	8	有	オージードーム
		ホンドフクロウ	1	有	里山のいきもの
	総種数	9			
総個体数	35				

(6) 哺乳類の年間飼育種数および頭数のリスト

分類	種名	個体数	展示歴	備考	
条殖綱	カンガルー目	オオカンガルー	1	有	オージードーム
		バルマウラビー	3	有	オージードーム
	ウサギ目	カイウサギ	2	有	ふれあいコーナー
	げっ歯目	デンジクネズミ	64		
		ハムスター	11		
		マウス(ニホンハツカネズミ)	10		
		ハツカネズミ	3		
		カイロトゲマウス	5		
		ジャービル	21		
		パンダマウス	1		
		デグー	1		
		ウスイロアレチネズミ	7	有	飛ぶ展
		フクロモモンガ	1	有	飛ぶ展
		ヒメハリテンレック	6	有	出張生物園
		チンチラ	26	有	観察展示室
	シマリス	8	有	出会いの広場	
	食肉目	イヌ	1		イングリッシュシープドッグ
		ネコ	3	有	きつずルーム 家畜種:雑種
	奇蹄目	ウマ	1	有	ふれあいコーナー 家畜種:ミゼットホース
	偶蹄目	ヒツジ	5	有	ふれあいコーナー 家畜種:コリデール
	総種数	20			
	総個体数	180			

3. 特記事項

(1) チョウ類の月別放蝶実績

今年度は各月 10 種 500 頭以上の放蝶数を達成することができました。以下に各月の放蝶種と頭数の一覧を報告します。

● 平成 26 年度月別放蝶実績

分類	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	
アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ	4	2	17	83	198	99	14	8	3	27	16	13	484	
	ベニモンアゲハ							6	5	39	2	66	4	122	
	キアゲハ	2	2	9	3		1	5	77	9	2	6	4	120	
	シロオビアゲハ	2	62	15	32	7	39	20	33	51	174	4	2	441	
	カラスアゲハ			6	11	3	8	1	3		5		9	75	
	ナミアゲハ	64	110	155	129	215	156	82	24	9	36	88	152	1,220	
	ナガサキアゲハ	45	163	63	84	26	146	111	88	150	10	160	64	1,110	
	クロアゲハ	48	113	203	66	129	61	151	71	106		67	52	1,067	
	オナガアゲハ		2	8											10
	モンキアゲハ		2	1	27	1	38	12	7	13	5	2	1	109	
	ミヤマカラスアゲハ	19	7	2		1									29
	アオスジアゲハ	5	11	10	25			1	1	5	2	3	1	64	
	タテハチョウ科	マダラチョウ亜科													
		リョウキュウアサギマダラ	50	19	4	3	34	12	17	44	38	20	30	107	378
アサギマダラ		34	4			10	35	2		3				88	
オオゴマダラ		187	27		4	5	94	4		107	70	15	27	540	
スズグロカバマダラ					9	2	5	3	63		10			92	
ツマムラサキマダラ		66	20	23	10	13	6	12	15	1	30	6	12	214	
タテハチョウ亜科															
カバタテハ		38	125	1	73	262	27	26	9	1	26		1	589	
リョウキュウミスジ		67	18	169	92	44	13	1						404	
ツマムラサキ		9	2		2	22	128	15	31	10	37	2		258	
ミドリヒョウモン						2								2	
クモガタヒョウモン						1								1	
ヒメアカタテハ			2											2	
ルリタテハ		1				1								2	
エルタテハ						1								1	
インカゲチョウ		5	26	16	7		3	6	33	25	49	59	32	261	
アカタテハ			27	17	3									47	
コムスジ			2	3	1	2								8	
クジャクチョウ						3								3	
オオムラサキ					36	40	4							80	
ゴマダラチョウ					4	3								7	
アオタテハモドキ								199						199	
コムラサキ								2						2	
ウスイロコノマチョウ						1			25		13	2		41	
キタテハ									1					1	
ヒメウラナミジャノメ					5									5	
コジャノメ				5	3								8		
シロチョウ科	クロテンシロチョウ	83	346	92	127	66	31	36						781	
	ツマベニチョウ	44	13	19	5		15			13			12	121	
	モンシロチョウ	9	29	70	17	9	3			2				139	
	スズグロシロチョウ		2		16	45								63	
	モンキチョウ				1									1	
	キチョウ	8	2			11	1	18	2				9	51	
	ヤマトスズグロシロチョウ		3	4	1	14								22	
	ヤマトシジミ	3	4	6	6	7	39		1	1				67	
	ベニシジミ	3	116	4	9				1	1				132	
	ツバメシジミ		2	1										3	
シジミチョウ科	ムラサキシジミ				1	14								15	
	ルリシジミ			3										3	
	ウラギンシジミ						3	5	1					9	
	ウラナミシジミ							2	1					3	
	ツシマウラボシシジミ		37		126		155							318	
	セセリチョウ科				1									1	
合計種数	23	32	26	32	35	27	26	20	20	17	14	16	53		
合計頭数	796	1,329	921	1,018	1,201	1,309	591	521	596	508	522	501	9,813		

(2) ツシマウラボシシジミの生息域外保全

今年度、ツシマウラボシシジミの生息域外保全の取り組みを行いました。生物園での飼育状況や実績について以下に報告します。



① ツシマウラボシシジミと足立区生物園での取り組みについて

ツシマウラボシシジミの生息地である対馬では、幼虫の食草のシカによる食害の影響などから平成 22 年以降に急激に減少してしまいました。野外での厳しい状況を受

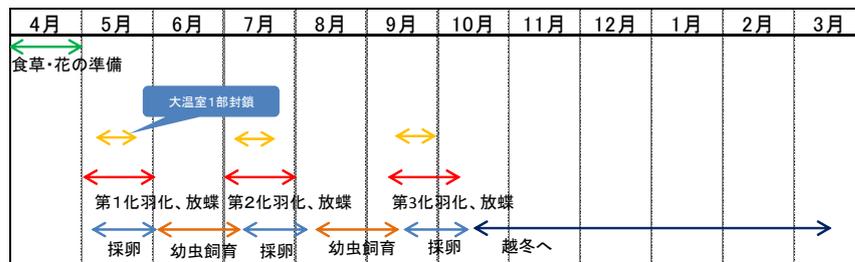
け、平成 25 年 8 月下旬より生息域外保全の場として、足立区生物園にて飼育を行い始めました。当初はチョウ類保全協会が主な活動を行っていましたが、平成 26 年 4 月に環境省より依頼を受け、足立区生物園で公式にツシマウラボシシジミ生息域外保全活動を行うことになりました。

② 足立区生物園におけるツシマウラボシシジミの飼育スケジュール

本種は野生下では成虫が約年 5 化する種だが、飼育下では飼育繁殖の労力を少なくするため、その回数を抑える必要がありました。また、来園者の影響が希少種の繁殖行動を妨げないよう GW や夏休みを避けて羽化させるため、生物園内では年 3 化の累代飼育を試みました。

実施内容は大きくわけて 2 つあり、大温室においての交配の試行と採卵、のちの幼虫の飼育作業を行いました。

<H26 年度 年間スケジュール>



月ごとの主な飼育作業内容

4月	昨年の越冬幼虫の受け入れ 越冬幼虫の蛹化準備	8月	幼虫飼育作業
5月	大温室にて、第1化交配試行 交尾済み個体より強制採卵	9月	大温室にて、第3化交配試行 交尾済み個体より強制採卵
6月	幼虫飼育作業	10月	幼虫飼育作業 飼育幼虫の越冬誘導
7月	大温室にて、第2化交配試行 交尾済み個体より強制採卵	11月 ～3月	幼虫の越冬管理

③ 主な飼育管理状況について

生物園内で主に行った飼育作業について以下に概要を記す。また、各化の飼育個体数については、下表を参照。

1) 大温室におけるツシマウラボシシジミの交配の試行

足立区生物園内のチョウの大温室にて、5・7・9月にツシマウラボシシジミの交配の試行を行った。羽化した個体を大温室に放蝶し、雌雄の様子を見ながら交配を行った。基本的には雄の張ったテリトリー内に雌を入れ、雄に雌を認識させて交尾を促すという方法をとった。その後、温室内の見回りで交尾個体を発見し回収を行った。各化において 10 頭の交尾済み雌を目標とした。

2) 飼育室内における強制採卵

交尾済みの雌を使用し、チョウの飼育室内にて強制採卵を行った。ガラスケー

スの中に食草であるヌスビトハギ鉢を入れ、母蝶に卵を直接葉に産ませた。上記の方法で交尾したメスを回収し行ったところ、各化において約800~1,000個の卵を得ることができた。

3) 飼育室内における幼虫飼育

孵化後、共食いを防ぐため、卵の段階でファルコンケースに1つずつ入れ、そのまま幼虫の飼育を行った。餌は、時期により新芽や花、種などを与え分けた。蛹になった個体は、羽化日を合わせるためにインキュベーターやワインセラなどを使用し温度管理を行い、成長の速度を調整した。そのことにより蛹化日のことなる蛹の羽化期をそろえ、第3化まで減らして累代飼育を行うことが出来た。

また、第3化目に関しては、幼虫で冬越しをさせるため休眠に入った個体を生物園の屋外に出し（植木鉢の中に入れる）越冬をさせた。

	羽化数				交尾 成功数	卵数		
	♂	♀	不明	不全		孵化数	無精卵数	幼虫数
5-6月	39				6	907		
	20	17	0	2		334	573	289
7-8月	147				11	818		
	39	58	29	21		634	182	330
9-10月	187				11	1002		
	76	70	9	32		704	250	142

④ 今後の課題について

来年度以降は幼虫の飼育では、多頭飼育、人工飼料飼育、代用食などを検討し、飼育作業の簡略化を目指したいと思います。また、越冬幼虫の管理技術を向上し、安定して冬季をまたいだ飼育管理が行うことができるよう知見を広げる必要があります。また、交尾実験のために大温室内に放蝶すると見失ってしまうことが多いため、成虫を再回収できるようにするための対策が必要となります。

(3) ホタルの飼育展示実績

今年度、水生ホタル類2種（ゲンジボタル、ヘイケボタル）の観賞会において、以下の通り各種個体数を展示することができました。



● 平成26年度 ホタル見 night!の展示頭数

	6/7	6/8	6/9	6/14	6/15	6/16	6/21	6/22	6/23	計
ゲンジボタル	80	80	80	100	100	100	80	80	75	775
ヘイケボタル	0	0	0	2	2	2	5	5	5	21

※ 計は延べ展示頭数

● 平成26年度 昼のホタル観賞会（夏季）の展示頭数

	6/29	6/30	7/6	7/7	7/13	7/14	7/15	計
ヘイケボタル	40	40	40	50	50	45	45	310

※ 計は延べ展示頭数

● 平成 26 年度 冬のホタル観賞会（光の祭典）の展示頭数

	11/29	11/30	12/6	12/7	12/13	12/14	12/20	12/21	12/23	計
ヘイケボタル	3	3	15	15	30	30	30	30	30	186
オオシマドボタル	30	30	25	25	25	25	25	25	25	235

※ 計は延べ展示頭数

● 平成 26 年度 昼間ホタル観賞会（冬季）の展示頭数

	1/2	1/3	1/4	1/6	1/7	計
ヘイケボタル	25	25	25	20	20	115
オオシマドボタル	25	25	25	25	25	125

※ 計は延べ展示頭数

（４）「ホタルのタベ」実現に向けたとりくみ

平成 30 年に「ホタルのタベ」を再開するため、今年度は以下の点について取り組みました。

① 飼育個体数増加の取り組みについて

ゲンジボタルについては、例年と同等程度の孵化幼虫を得ることが出来たことに加えて、大規模改修により水路の水質（濾過器機能、水温）が安定したため、来年度以降はこのことによる効果が期待できる。水温については夏季に熱交換器の利用により水温を 27℃以下に押さえることができ、毎年懸念されていた高水温によるカワニナの大量死を避けることができました。



ただし、ゲンジボタルの成長には 1～2 年かかるため（3 年以上かかる個体も存在する）、個体数の増加には数年かかると考えられます。そのため、今後は羽化率向上のために上陸地の土壌の転地返しや組成比の調整を実施します。

ヘイケボタルについては、孵化幼虫時における餌の量を増やしたことにより、生存率が例年に比べて格段に改善されました。そのため十分な個体数を確保することができました。今後は羽化率向上のため、上陸水槽の改善や土壌組成比の検討を行います。

② 展示実現に向けた課題抽出について（昆虫ドームの改善について）

今年度、夏季にゲンジボタルとヘイケボタルのオス成虫をそれぞれ 10～20 匹、昆虫ドーム内に放虫し、行動を観察しました（時期は種類ごと別々）。どちらの種もある程度の活動（飛翔、発光）が見られたものの、それほど活発ではなく、観賞会として楽しめるほど光を観察することはできませんでした。その大きな原因として考えられるのは、街灯の光が直接ドーム内に届くため、ホタルの活動には明るすぎたと考えられます。

来年度は暗幕や園芸用の遮光シートなどによる遮光の試行を実施し、手間やコストなどの面も含めて、ホタルのタベを開催するに適した素材と方法を検討します。

③ 今後の取り組みについて

今年度は、ゲンジボタルとヘイケボタルの両種において飼育個体を増加させることと、飼育を安定させることに重点を置いて飼育管理を行いました。そのため特にヘイケボタルにおいて、孵化幼虫の生存率において改善が見られたため、来年度はそれらの個体の羽化率を向上させることに重点を置いて飼育管理を行います。また、ゲンジボタルについては、来年度の羽化状況を確認し、個体数増加に向けて取り組むべき項目を整理します。

また展示方法については、現在候補になっている昆虫ドームの環境改善に向けて、遮光材の検討と実験を実施します。また、展示場所については昆虫ドームだけでなく上陸水路なども活用の可能性を検討しながら柔軟に展示方法を検討します。



● 「ホタルのタベ」開催に向けた年度ごとの重点取り組み

年度	ホタルの飼育			展示方法の検討
	ゲンジボタル	ヘイケボタル	エサ用水生巻貝類	
平成26年度	飼育環境(上陸水路)の改善	飼育個体数の増加 飼育方法の簡略化	飼育環境(水路)の改善	昆虫ドームへの放虫試験
平成27年度	飼育個体数の増加 羽化率向上への取り組み	羽化率向上への取り組み	飼育環境(水路)の改善	遮光材の検討と試行 ドーム内放虫方法の検討
平成28年度	飼育個体数の増加 羽化率向上への取り組み	飼育の安定化 新規餌の検討	個体数増加への取り組み	遮光材の検討と試行 試験的放虫の実施
平成29年度	飼育の安定化 新規餌の検討	飼育の安定化 個体数増加への取り組み	個体数増加への取り組み	小規模でのホタル観賞の試行
平成30年度	『ホタルのタベ』開催		個体数増加への取り組み	『ホタルのタベ』開催

(5) 観察展示室「両生爬虫類展示エリア」の改修

今年度、観察展示室の『両生類爬虫類の世界』ゾーンの展示を一部改修しました。該当展示ゾーン奥にあるケージに経年劣化が見られたため、平成27年2月16日(月)から2月23日(月)にかけて、ケージ上部の取り替え作業を行いました。また、それに伴い、展示生体の入れ替えおよび展示に合ったパネルを設置しました。



(6) 観察展示室「水族展示エリア」の水槽改修について

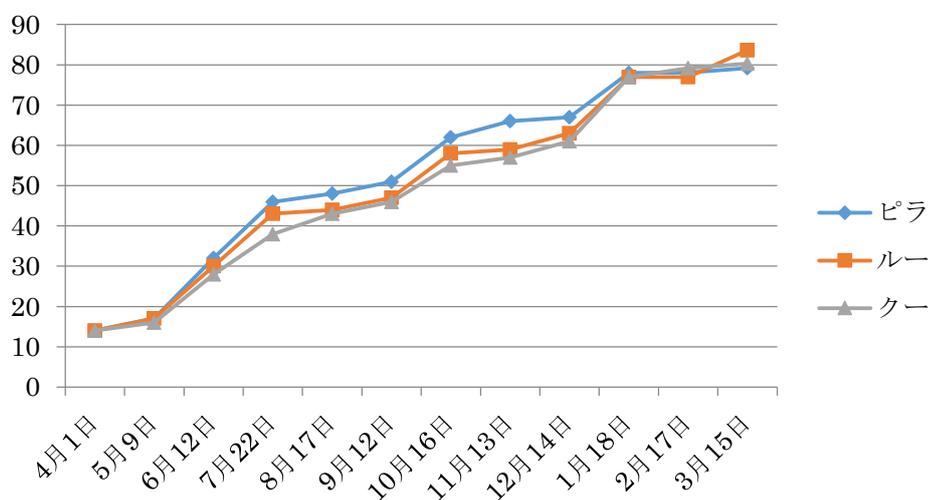
今年度は破損の危険性がある 2 基の水槽（磯の水槽・チンアナゴの水槽）の修繕を行いました。特に「磯の水槽」については内部レイアウトも含め更新し、水槽内の生体が観察しやすくなりました。

しかし、その他の水槽についても経年劣化により、近い将来に修理が必要になると予想されます。来年度は、それらの水槽の修繕計画を行います。水槽の修繕が単なる修理にするだけでなく、それを活用してより魅力ある展示水槽にするため、観察展示室の展示ストーリーと併せて計画を行います。



(7) ピラルクーの成長実績

今年度、新たに飼育を開始した 3 尾のピラルクー（個体名：ピラ、ルー、クー）について、成長記録を行いましたので以下に報告します。



3尾とも順調に成長し、導入時（平成26年4月）に約14cmだった体長が平成27年3月の時点で約80cmになりました。成長速度についてもばらつきはほとんど見られず、各個体ともほぼ同じ速度で成長しています。今後も成長記録を行い、各個体が順調に成長するよう飼育管理を行います。



（8）野生個体の保護（傷病鳥の受け入れ）

NPO法人自然環境アカデミーが東京都内で保護したホンドフクロウを平成26年4月1日より受け入れました。多自然型庭園の「里山のいきもの」ゾーンにて展示の一環として飼育を行っています。



第三章 施設維持管理業務

I 元洲江公園の維持管理業務

1. 公園管理上の留意事項

本共同体は、元洲江公園の維持管理業務を遂行するにあたり、「元洲江公園・生物園管理運営業務仕様書」に基づき、以下の点に留意し、適正かつ、適切な公園の維持管理に努めました。

- 日常及び定期的な施設の点検と修繕、清掃などの保守管理を適切に行うとともに、遊具や工作物の故障、台風や降雪等、休園日・夜間においても緊急時に迅速に対応できる体制を確保すること。
- 公園内の見回りをを行い、他の公園利用者や近隣住民等の迷惑や危険となる行為については、適正かつ安全な利用を行うよう指導する。
- 不審者・不審物の発見に努め、不法占拠等、不適切な利用が確認された場合は、公園管理者として撤去、退去を指導すると共に、必要に応じて区と協議し、必要な措置をとること。

2. 公園維持管理業務の内容

① 園内清掃

園内は日常的に拾い清掃や掃き清掃を適宜組み合わせて、園路・広場、園地の清掃を行い、常に園内をきれいな状態に保つこと。公園外周道路への落葉等についても清掃範囲にふくむものとする。ゴミは分別を行ったうえで所定箇所に集積し、適切に処理する。公園入口の噴水モニュメントについては、適宜高圧洗浄等を行い、美観の保持に努めること。

② 樹木管理

来園者の公園利用と安全性を確保しつつ、樹木の剪定や刈り込み、施肥等を定期的に行うこと。剪定、刈り込みを行う場合は、樹木特性に応じて、最も適切な時期と方法で行うこと。剪定枝等はチップ化して園内に敷き均すなどリサイクルに努めること。

③ 病虫害防除及びカラスの巣撤去

病虫害防除にあたっては早期発見に努め、剪定防除、補殺等により行うこと。チャドクガの発生など緊急の場合を除き、薬剤の使用は原則禁止する。

カラスの巣を撤去する場合は、産卵前に行うこと。産卵後は注意看板を設置するなどの被害防止措置を講じることとし、卵、ヒナの撤去は必要最小限に止めること。止むを得ず撤去する場合は鳥獣保護法を遵守すること。

④ 植込み地及び草地管理

公園利用者の憩いと安全に配慮し、定期的に除草、草刈りを行うこと。除草剤の使用は禁止する。草地広場のうち、草地Aについては年5回程度均一に機械刈りを行い、草地Bについては、範囲の選択的な草刈手法を用いながら、年5回程度機械刈りを行う。また、草地A、B以外の草地については、年5回程度均一に機械刈りまたは除草を行う（図1参照）。刈草は刈放しとするが、必要に応じ場外処分すること。



（図1）

⑤ 花壇管理

園内の各花壇及びプランターは、季節に応じた草花の植付けを行い、美観と環境保持につとめること。公園正面入口の春花壇はチューリップ花壇とすること。

⑥ 遊具管理

月1回以上定期的に目視、触診等による遊具及び工作物の点検を行い、ボルトナットの増し締め、グリスアップ、吊り金具等の消耗部品の交換を適宜行うこと。また、塗装の塗り替えについても適切に行い、美観の保持につとめること。

また、年1回、区が委託する専門業者による点検を行うので、点検結果に従い速やかに使用中止や修繕、取替えを行うこと。

⑦ つり池清掃

水面のゴミや落葉等を網等で随時除去すること。鯉、鮎の死亡数について記録し月報を提出すること。また大量死があった場合は至急報告する。

3. 元渚江公園維持管理業務報告

元渚江公園の維持管理作業の詳細については、月報をご参照ください。ここでは、実施した作業を一覧表「平成26年度施設維持管理業務年間報告（元渚江公園）」でご報告させていただきます。また、共同体直営作業のうち主なものを写真でご報告することとします。

平成26年度 施設維持管理業務 年間報告 (元渚江公園)

作業内容	実施回数	月															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
公園維持管理	毎日	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公園内清掃	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
噴水モニュメント高圧洗浄	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
樹木剪定	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
枯枝撤去	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
落葉清掃	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
剪定枝・枯れ枝・チップ化	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
病虫害駆除	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
カラスの巣 撤去	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
除草	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
花壇植栽・管理	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遊具日常点検	毎月	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
釣り池 清掃	毎日	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
釣り池 噴水装置清掃	2回	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公園内 補修	適宜	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
スミラブ発砲錠投与	1回	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公園照明巡回点検	2回	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公園機械設備	2回	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
作業人員	-	95	92	89	93	91	81	86	91	77	73	76	76	76	76	76	76
		計画			適宜			実施									

4. 元渚江公園維持管理作業の様子

- 公園内清掃作業

落葉、ゴミ、トイレの清掃作業 公園の外周の清掃



- 噴水清掃

高圧洗浄機を使用するの洗浄作業



- 樹木剪定

樹木の成長に合わせて適期に剪定作業を行う。



- 枯れ枝撤去

高所作業車を使用するの高木、枯れ枝撤去



- カラスの巣撤去

日々の点検業務を行い、発見次第撤去を行う。



- 除草

刈払機、ロータリーモアを使用しての除草作業



- 花壇管理

季節に合わせての草花の植え替え、管理作業



- 釣り池 噴水装置清掃

噴水装置を取り外しての清掃



Ⅱ 生物園の維持管理業務

1. 生物園維持管理業務の内容

① 館内清掃

利用者が、施設を気持ちよく利用できるよう、定期清掃、日常清掃、メンテナンスを計画的に実施し、常に館内の美化及び衛生管理に努める。

② 植物管理

各種熱帯植物や雑木、野草、水生植物等についてその特性や生態的役割について十分理解し、剪定、除草、間引き、補植等必要な作業を適宜行う。

③ 機械設備

日常及び定期的な施設点検を行い、施設及び工作物の適正な維持管理に努めること。施設の異常が発見された場合は、速やかに修繕する。また、維持管理の仕様は、特記仕様書のほか東京都建設局「設備保守標準仕様書」及び「足立区維持保全業務標準仕様書」によるものとする。

2. 生物園維持管理業務報告

生物園の維持管理作業の詳細については、月報をご参照ください。ここでは、実施した作業を一覧表「平成 26 年度施設維持管理業務年間報告（生物園）」でご報告させていただきます。また、共同体直営作業のうち主なものを写真でご報告することとします。

平成26年度 施設維持管理業務 年間報告 (生物園)

作業内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
館内清掃	実施回数													
定期清掃	6回		14日		9日		20日		14日		8日		9日	
丸三農薬														
大温室ガラス清掃	1回												16日	
シミクリーンサービス														
除塵	毎日													
各所水拭き・洗剤拭き	毎日													
ゴミ収取	毎日													
消耗品補充	適宜													
作業人員	—	63	65	57	61	61	57	55	52	55	52	50	55	
植物管理		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
散水	毎日													
剪定	適宜													
除草	適宜													
間引き	適宜													
補植・植替等	適宜													
作業人員	—	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
機械設備		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
エレベーター	毎日 【遠隔監視】													
	毎月 【遠隔診断】													
日立ビルシステム	5回 【有人点検】	14日	20日	20日				20日			19日			
自動ドア														
チプロシステム	2回							22日						30日
消防用設備	2回													26日
上野消防														26日
機械警備	毎日													
セコム														
自家用電気工作物	毎月	10日	10日	10日	9日	9日	12日	10日	11日	9日	11日	7日	11日	
村山電気														
吸収式冷温水機(ガス焚)	2回			9日						17日				
甲府ビルサービス														
温水ボイラー	3回							10日				12日		2日
甲府ビルサービス														
湧水・排水槽	1回			20日										
甲府ビルサービス														
電話	2回				14日							15日		
甲府ビルサービス														
電子制御機器	1回													
甲府ビルサービス														
環境測定	6回		21日		20日			10日		7日		15日		5日
甲府ビルサービス														
グリストラップ	3回			20日					6日				20日	
丸三農薬														
蓄熱槽	1回												11日	
膨張水槽	1回												10日	
ポンプ類	1回							7日						
空気調和機	2回							1日				15日		
ファンコンベクター	2回							20日				20日		
空調機	2回							4日				15日		
パッケージ空調機	2回							1日						14日
排気ファン	1回											15日		
加熱冷却ユニット	2回				20日			19日						
ポンプ(雑)	1回								30日					
天窓・自動	1回									1日				
フィルター洗浄	6回	27日		20日		10日		7日			15日		5日	
クーリングタワー	4回	15日		21日		21日		25日		21日				
定期巡回点検	毎月	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	30日	29日	31日	29日	31日
塩素除去装置	4回			20日				20日			20日			31日

計画 適宜 実施

3. 生物園維持管理作業の様子

- 館内清掃（各所水拭き、洗剤拭き）

モップによる水拭き、洗剤を用いてのポリッシャー掛け



- ゴミ収集

毎日、時間を決め館内ゴミの収集



- 庭園清掃

庭園内の落葉、ゴミの清掃。



- ガラス清掃

水槽、展示室のガラス清掃



- 大温室植物管理（灌水作業）

スプリンクラーで灌水が行き届かない部分の手灌水



- 大温室植物管理（剪定作業）

休館日に行う剪定作業、チョウの生育に適した環境を創り出す。



- 大温室清掃

大温室の枯葉の清掃



- 植物の補植

植物が傷んだ時は補植を行う。

